

平成29年版

消防年報



那智勝浦町消防本部

まえがき

本消防年報は、那智勝浦町の消防現勢及び平成 28 年度中の消防現況を紹介するとともに、将来の参考に資することを目的として編集したものであります。

本町消防行政に対する理解を深めていただき、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月

那智勝浦町消防本部



消防吏員服制基準（昭和 42 年消防庁告示第 1 号）に規定する

消防職員の制服に取り付ける那智勝浦町を表徴するバッジ

目 次

まえがき

那智勝浦町概要	1
郷土のあゆみ	2
那智勝浦町消防の沿革	3～14
管内案内図	15

総 務 編

消防予算と消防職員の概要	16～17
一般会計予算と消防予算	18
消防組織図	19
歴代消防長、消防署長	20
消防本部の事務分掌、消防署の事務分掌	21～22
消防職員の勤務時間表、特殊勤務手当	23
消防職員教養実施状況	24
消防職員資格取得状況	25
消防職員数の推移	26
消防拠点施設等一覧	27
主力機械配置表、主力機械の経過年数	28
主力機械配置状況	29
主力機械諸元表	30～32

火 災 編

火災概要	33
火災概況及び前年度との比較	34
過去5年間月別火災発生状況	35
平成28年度火災発生状況	36
平成28年度月別火災発生状況	37
地区別火災発生状況	38

予防・危険物編

予防・危険物の概要	39
防火対象物	40
管内防火対象物の現況及び平成28年度立入検査状況	41
平成28年度月別建築確認同意事務取扱状況	41
消防用設備等設置状況、各種届受付件数及び検査済証交付件数	42
危険物 対象物別貯蔵・取扱状況、製造所等倍数状況	43
平成28年度における防火対象物定期点検報告制度の状況	44
危険物関係申請及び届出受理状況	44
5年間の危険物施設数と平成28年度の立入検査実施状況	44
消防法第9条の3及び火災予防条例関係届出施設と立入検査実施状況	45
独居老人訪問指導	45
火薬類取締法関係 火薬類火薬庫・販売店状況、火薬類関係申請及び届出受理状況	46
高圧ガス保安法関係 高圧ガス製造所・販売所・貯蔵所状況	46
高圧ガス関係申請及び届出受理状況	46
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係	46
液化石油ガス販売事業所状況	46

警 防 編

警防業務の概要	47 ~ 48
消防用資器材保有状況	49 ~ 53
携帯電話等からの119番通報受信状況	54
消防相互応援協定、その他の協定	55
消防水利、主な消防水利の設置状況	56
那智山地区自然水貯水型消防水利施設	57 ~ 58
気象警報・注意報・情報、平成28年度気温・湿度グラフ	59
過去5年間の月別降雨量・月別降雨日数	60

救急・救助編

救急救助業務の概要	61
救急出場状況一覧表	62
過去5年間の救急出場件数・救急搬送人員	63
傷病程度別搬送割合	64
事故種別医療機関別搬送状況	65
診療科目別医療機関搬送状況、搬送医療機関別搬送割合	66
現場到着所要時間別出場状況、収容所要時間別搬送状況	67
救急隊の行った応急処置件数	68 ~ 69
特定行為実施状況	69
転送にかかる収容所要時間別搬送状況、医療情報提供件数調	70
曜日別搬送状況、宿泊所からの要請による搬送状況	71
事故種別転送回数別搬送人員調、傷病程度別転送回数別搬送人員調	72
診療科目別医療機関案内状況、ヘリコプターによる搬送状況	73
階級別救急資格取得状況調、年齢別救急資格取得状況調	74
救助統計、過去5年間の救助件数	75
他機関との合同訓練実施状況	76
救助活動の範囲、事故種別の区分	77

消 防 団 編

消防団の概要	78
歴代消防団長、副団長	79
消防団員数、階級別年齢表	80
消防団員階級別在職年数表、消防団員報酬	81
消防団員の職業構成、消防団員の就業形態、消防団員の退職・新任状況	82
消防団員教養実施状況、消防団員数の推移	83

那智勝浦町概要

1 地 勢

本町は、和歌山県の南東部に位置し、東は黒潮洗う熊野灘に臨み太地町と接し、西は串本町及び古座川町、北は新宮市に接している。内陸には山が迫り、山地と丘陵地を合わせた面積が総面積の90%を占めている。

紀伊山地の南に連なる那智連峰からは那智川、太田川の両河川が熊野灘に注ぎ、海岸部では見事なリアス式海岸を展開している。温暖多雨な本町は、風光明媚な景観と山の緑、海の青に恵まれたところである。

2 面 積		183.31	km ²
3 広 袤	東西	19.80	km
	南北	19.20	km



熊野古道大門坂

郷土のあゆみ

本町は、先史より人々が生活していた証として、縄文・弥生時代の遺跡や土器など、太古からのメッセージが数多く出土している。名瀑那智の滝を抱く那智山は、日本の代表的な聖地として歴史적으로よく知られ、熊野三山の一つとして、修験道や観音信仰と結びついて発展し、「蟻の熊野詣」と言われるほど参詣路（熊野古道）はにぎわった。

平安時代の頃は、権門勢家や社家土豪など荘園の私営もみられ、やがて地方豪族の所領となり、江戸時代には新宮城主水野氏の治下に置かれた。明治4年の廃藩置県で和歌山県の所管となり、明治22年の市町村制の施行により本町域には、勝浦村、那智村、宇久井村、色川村、上太田村、下太田村、下里村の7か村が生まれた。

その後、勝浦村、那智村、下里村が町制を施行し、上太田村と下太田村が合併して太田村となり、昭和30年には勝浦町、那智町、宇久井村、色川村の4町村を合併して那智勝浦町が誕生した。

さらに昭和35年、下里町、太田村を編入して現在に至っている。以来、自然を保護し、天与の景観を守りつつ、「豊かで、明るく、住みよい町」の実現へ向けて歩み続けている。

町章



町花 つつじ



町木 かし



那智勝浦町消防の沿革

明治 39 年		私設天満消防組創設、75 名
明治 40 年	4 月	那智消防組創設
明治 41 年	4 月	勝浦消防組創設、65 名
明治 42 年		私設井関消防組創設、50 名 (この時期各町村は、消防組を組織する。)
昭和 4 年		下里消防組に消防タービン式ポンプ 1 台配置
昭和 7 年		勝浦消防組に消防自動車(米国製フォード V18 型四輪車)1 台配置
昭和 8 年		勝浦消防組に消防艇「白龍」(約 3t、ポンプ 1 基、エンジン 1 基)1 隻配置
昭和 9 年	9 月	町の議決を経て、私設那智消防組を公設消防組に改編
昭和 14 年	4 月	勅令第 20 号、警防団令に基づき各町村は、消防組を警防団に改編
昭和 17 年		那智町警防団に消防自動車 1 台配置
昭和 19 年	12 月	7 日、東南海地震発生(M8.0、当町における死者 34 人、行方不明者 4 人、流出家屋 218 棟)
昭和 21 年	12 月	21 日、南海道地震発生(M8.1、新宮市では倒壊家屋続出)
昭和 22 年	10 月	消防団令に基づき、各町村の警防団を消防団に改編
昭和 24 年	7 月	勝浦町消防団所属第 2 号消防艇「白龍」進水
昭和 28 年		下里町消防団に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 30 年	4 月	4 か町村合併に伴い、那智勝浦町消防団発足(4 個分団、256 名) 旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 33 年	7 月	消防相互応援協定締結(那智勝浦町・新宮市・古座町・古座川町・太地町・本宮町・熊野川町・北山村・下里町・太田村)
昭和 35 年	1 月	下里町・太田村の編入により、那智勝浦町消防団は 6 個分団、366 名となる。
	4 月	6 個分団発足となり、実員数は 360 名となる。
	10 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞ TX631 改型)1 台配置
昭和 36 年		旧第 2 分団(那智)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
昭和 38 年		旧第 3 分団(宇久井)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	10 月	旧第 5 分団(下里)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	12 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ TXG10 改

		型)1台配置
昭和39年	2月	旧第6分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタV30AS型、B-3級)1台配置
	10月	旧第5分団(下里-浦神東)に小型動力ポンプ(トヨタV30AS型、B-3級)1台配置
昭和41年		旧第1分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタVM型、B-3級)1台配置
昭和42年		旧第1分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタV30A型、B-3級)1台配置
	11月	旧第2分団(那智)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ45改型)1台配置
昭和43年	10月	15日、第1回全国消防操法大会出場(於:駒沢川北公園、那智勝浦町消防団)
	12月	消防団本部庁舎(旧第1分団-勝浦屯所併設)竣工(鉄筋コンクリート2階建、延272㎡)
昭和44年	10月	消防団員の定員数を380名に増員 旧第1分団(勝浦)に化学消防ポンプ自動車(いすゞTXG10改型、A-2級)1台配置
	11月	16日、第1回和歌山県消防操法大会出場(於:白浜町)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
昭和45年	11月	旧第3分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V改型、A-2級)1台配置
	12月	旧第3分団(宇久井)に消防車庫竣工(鉄筋コンクリート造、平屋建、延36㎡) 旧第1分団(勝浦)に第3号消防艇「白龍」(総トン数14.51t 総事業費12,110千円、1隻配置)
昭和46年	3月	消防団本部に勝浦ロータリークラブ寄贈の広報車(トヨタRT68V改型)1台配置
	8月	旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
	11月	旧第5分団(下里)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
昭和47年	7月	旧第6分団(太田)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
	8月	旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(トヨタRN20改型)1台配置
昭和48年	7月	役場厚生課に農協共済寄贈の救急自動車(ニッサンVPC110改型)1台配置
	10月	旧第4分団(色川)に消防車庫竣工(鉄筋コンクリート造、平屋建、延24㎡)

昭和49年	4月	自治省告示第80号により、消防本部・消防署の設置指定される。
昭和50年	4月	那智勝浦町消防本部・消防署発足、消防団本部庁舎にて業務開始(消防職員の条例定数20名) 消防職員20名 消防ポンプ自動車(A-2級)1台 救急自動車(農協共済寄贈)1台 小型動力ポンプ(C-1級)1台
	9月	旧第2分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞSBR320改型、A-2級)1台配置
	10月	消防本部・消防署庁舎竣工(鉄筋コンクリート造、2階建、延690.65㎡) 消防署に日本船舶振興会寄贈の救急自動車(トヨタRH11V型)1台配置
昭和51年	3月	消防職員の条例定数30名に増員
	5月	旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
	7月	旧第5分団(下里-浦神東)に消防器具庫竣工(コンクリートブロック造、平屋建、延23.38㎡)
	8月	旧第2分団(那智-天満)に消防車庫竣工(鉄骨造、平屋建、延45.47㎡)
昭和52年	3月	消防署に日本損害保険協会寄贈の消防ポンプ自動車(ニッサンFH60型、A-1級)1台配置
	9月	消防署に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞSCR320改型、A-2級)1台配置
	10月	紀南消防相互応援協定締結、加盟5消防本部(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市)
	11月	旧第2分団(那智-朝日)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
昭和53年	12月	消防署に30m級(32m)梯子付消防ポンプ自動車(日野TC343改型、A-1級、総事業費57,700千円)1台配置
昭和54年	10月	本宮町消防本部発足に伴い、昭和52年10月1日締結の紀南消防相互応援協定に加盟、6消防本部となる(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市・本宮町)。
	12月	旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞKSCR320改型、A-2級)1台配置
昭和55年	7月	用務員1名増員
	11月	旧第2分団(那智-朝日)に消防ポンプ自動車(いすゞKTL D44改型、B-1級)1台配置

	12月	消防署に小型動力ポンプ(トハツV15A型、C-1級)1台配置
昭和56年	3月	旧第2分団(那智-天満728の1)に消防屯所竣工(鉄骨造、2階建、延105.60㎡)
	7月	旧第3分団(宇久井)及び旧第5分団(下里-天満)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)各1台配置
昭和57年	3月	消防署に日本損害保険協会寄贈の救急自動車(トヨタJ-RH45VB型)1台配置 表示公表制度施行による第1回消防適マーク交付(交付率31%)
	5月	消防本部に勝浦ローリークラブ寄贈の消防広報車(トヨタL-TX67U改型)1台配置
	7月	旧第2分団(那智市野々)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)1台配置
	9月	救急医療情報システム業務開始
	10月	旧第5分団(下里)の下里青年研修所敷地内に消防器具倉庫竣工(軽量鉄骨造、平屋建、延5.5㎡)
昭和58年	3月	県化学消火薬剤備蓄タワ竣工(消防本部敷地内、内容量20.337㎡)
	4月	消防団を8個分団に改編
昭和59年	4月	1日、第3代消防長 岩淵芳一 就任、第2代消防署長 田原道夫 就任
	7月	消防本部及び消防署の機構改編
	8月	第3分団(二河)・第7分団(高芝)・第8分団(小匠)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)各1台配置
	12月	第5分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N改型、A-2級)1台配置
昭和60年	2月	8日、日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞(那智勝浦町消防団)
	7月	1日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ 結成(総員117名)
	8月	第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツV50D型、B-3級)1台配置 第2分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N改型、A-2級)1台配置
昭和61年	8月	3日、第11回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:那智勝浦町)小型ポンプの部、第3位入賞(那智勝浦町消防団) 第4分団(井関)に日本消防協会寄贈の小型動力ポンプ付積載車(トヨタL-YH80改型、トハツV60BS型、B-2級)1台配置
	11月	第6分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(M-YY61改型)1台配置 第7分団(浦神東)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3

		級)1台配置
昭和62年	1月	5日～3月30日の間、梯子車オパールホール実施
	3月	消防署に救急車(トヨタL-YH71VB型、1,998cc)1台配置
	4月	10日、(財)日本造船技術センターに消防艇の設計委託
	10月	28日、消防艇「はくりゅう」起工(勝浦船渠株式会社)
	12月	21日、第4号消防艇「はくりゅう」(総t数19t、109,000千円)進水
昭和63年	1月	9日、第4号消防艇「はくりゅう」竣工
	2月	消防署に油圧救助器具1式配置(濱地利三朗氏寄贈)
	3月	消防署に司令広報車1台配置(トヨタN-LX76V改型、2,400cc)(濱地利三朗氏寄贈) 那智勝浦町防災行政無線システム完成運用開始
	8月	7日、第12回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:高野町)ポンプ車の部、優勝(那智勝浦町消防団) 第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタV50D型、B-3級)1台配置
	9月	6日、局地的集中豪雨により那智川が氾濫、川関地区を中心に床上、床下浸水被害続出
	10月	消防職員の条例定数32名に増員 第2分団(勝浦)に小型動力ポンプ(ユニットP303B型、C-1級)1台配置 第4分団(天満)に小型動力ポンプ(トヨタV20B型、C-1級)1台配置 第8分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタV50D型、B-3級)1台配置
	11月	第7分団(下里)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR58E2N改型、A-2級)1台配置
平成元年	2月	消防本部通信指令室に全国消防共通波及び防災相互通信波専用基地局を整備
平成2年	8月	消防署に非常電源設備設置
	1月	第1分団(勝浦)に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞP-FRR12AV改型、A-2級)1台配置
	2月	第3分団(二河)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルM-KT6改型)1台配置
	3月	第3代消防長 岩淵芳一 退任
	4月	1日、第4代消防長(心得)兼消防署長 田原道夫 就任
	7月	9日、第4代消防長兼消防署長 田原道夫 就任
	8月	1日、和歌山県防災行政無線システム本運用開始
	9月	19日夜半、大型台風19号白浜町に上陸、本町に多大な被害をもたらす。

	10月	女性消防団員採用(22名)
	11月	第7分団(浦神東)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置 20日、女性消防団員入団式挙行(於:町体育文化会館)
	12月	第8分団(太田南大居)に消防ポンプ自動車(いすゞU-NK S58GR型、A-2級)1台配置
平成3年	2月	8日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
	4月	消防署交替制勤務者の変則三部制実施 救急救命士法施行(救急隊員の行う応急処置の範囲拡大)
	8月	1日、第3代消防署長 住野晃久 就任
	11月	第7分団(下里天満)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
	12月	消防署にCD-型、A-2級、4WD式、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKS58GR改型)1台配置
	平成4年	3月
8月		2日、第14回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:有田市)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
9月		第8分団(浦神)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
10月		14日、第13回全国消防操法大会出場(於:横浜市)小型ポンプの部入賞、優良賞受賞(那智勝浦町消防団)
12月		色川コミュニティ消防センター竣工(2階建、延53.73㎡) 第4分団(天満)にCD-型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DB型)1台配置
平成5年	1月	5日~3月31日の間、梯子車オハ-ホール実施(2回目)
	4月	消防職員の週40時間勤務体制実施に伴い、消防署交替制勤務者の変則三部制が完全三部制となる。
	5月	消防署に救急車(いすゞT-WFR12FVH改型)1台配置(日本消防協会寄贈)
	7月	紀南消防相互応援協定に3消防本部が新規加盟、(近隣9消防本部となる。)田辺市・大辺路消防組合・白浜町・串本町・古座川消防組合・那智勝浦町・新宮市・本宮町・熊野市
	10月	消防署にA型、A-2級、水槽付き消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DBV改型)1台配置
	12月	第4分団(井関)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置

平成 6 年	3 月	天満コミュニティ消防センター竣工(平屋建、延 38.99 m ²)
	11 月	消防署に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ、動力噴霧機積載車(スバルスバル-チャージャー)1 台配置
	12 月	第 3 分団(須崎)に CD- 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKR66GN 改型)小型動力ポンプ(トヨタV-46A 型)各 1 台配置
平成 7 年	1 月	兵庫県南部地震災害に緊急消防援助隊派遣、活動地神戸市須磨区及び長田区、第一次派遣隊(4 名)1 月 18 日～1 月 21 日(4 日間)第二次派遣隊(4 名)1 月 21 日～1 月 23 日(3 日間)出動車両、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、主な活動内容は消火活動及び人命救助活動
	3 月	消防団(第 1 分団～第 8 分団)車両に受令機 9 機設置
	8 月	消防団(第 1 分団～第 8 分団)車両に受令機 7 機設置
	9 月	3 日、町総合防災訓練(木戸浦・杉浦島所有地)
	10 月	消防職員の条例定数 40 名に増員
	12 月	第 1 分団(勝浦)に CD- 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞKC-NKR71GN 改型)1 台配置
平成 8 年	3 月	第 3 分団(二河)に車庫、資機材備蓄倉庫設置(木造平屋建 24.09 m ²) 消防署資機材倉庫建設(木造平屋建 20.16 m ²)
	4 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 7 年 10 月～平成 8 年 3 月)及び当該国家試験合格 消防本部、消防署の機構改革(本部・3 課 7 係、消防署・3 班 9 係)
	8 月	聴覚障害者緊急通報用ファクシミリ運用開始
	10 月	消防団本部に可搬消防ポンプ付軽積載車 1 台配置(日本消防協会寄贈)
平成 9 年	2 月	消防署に A-2 級、 型化学消防ポンプ自動車(いすゞKC-FSR33G2V 改型)1 台配置
	3 月	無線中継基地局(しょうぼうみょうほう)妙法山に設置 第 4 代消防長 田原道夫 退任
	4 月	第 5 代消防長 森本桂司 就任
	6 月	消防団司令広報車 1 台配置
	11 月	消防署前面土地を購入し、梯子車等の訓練用地を確保(371.23 m ²)
平成 10 年	2 月	消防署に司令広報車 1 台配置(トヨタ KD-KZN 型、2,980cc) (全日本消防人共済会寄贈)
	3 月	第 6 分団(色川)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4 改型)1 台配置
	4 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 9 年 10 月～平成 10

		年 3 月)及び当該国家試験合格(2 人目) 消防団無線機 52 機配備運用開始(消防団波)
	6 月	携帯電話からの 119 通報、県下 4 フロックに分けて運用開始、当消防本部は田辺市消防本部を代表とする紀南フロックに属する。
	7 月	第 17 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:上富田町) 小型ポンプの部優勝(第 3 分団)
	10 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 10 年 4 月~9 月)及び当該国家試験合格(3 人目) 勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
	11 月	消防署に CD- 型、A-1 級、4WD、消防ポンプ自動車(いすゞ KC-NKS71GR 型)1 台配置(日本損害保険協会寄贈)
平成 11 年	3 月	消防署に高規格救急自動車(トヨタ CB-VCH38S 型、4WD、3,370cc)1 台配置 那智勝浦町コミュニティ消防センター竣工(鉄骨造 2 階建、延 553.02 m ²)
	10 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 11 年 4 月~9 月)及び当該国家試験合格(4 人目) 消防艇「はくりゅう」主機関・高速エンジン 2 基オーバーホール実施(10 月 25 日~11 月 30 日)
平成 12 年	1 月	梯子車オーバーホール実施(1 月 17 日~3 月 30 日)(3 回目)
	4 月	消防吏員服制規定の改正
	6 月	第 23 回東牟婁郡消防大会・第 18 回東牟婁郡消防操法大会が本町木戸浦グラウンドにて開催される。
	10 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 12 年 4 月~9 月)及び当該国家試験合格(5 人目) 15 日、町総合防災訓練実施(那智漁港)
平成 13 年	1 月	21 世紀最初の消防出初式挙行(消防艇「はくりゅう」に県防災ヘリコプター「きしゅう」も参加し、文字どおり陸・海・空の放水訓練を実施する。)
	3 月	那智山地区自然水貯水型消防水利施設が完成し、当該地区の水利充足率が向上する。(平成 9 年度からの 4 か年継続事業)
	8 月	21 日、台風 11 号襲来により太田川氾濫、人的被害は免れるものの、床上浸水 145 世帯 312 人、床下浸水 111 世帯 262 人、被害総額 779,694 千円の被害が生じた。
	12 月	那智漁港ヘリポート完成
平成 14 年	3 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 13 年 10 月~平成 14 年 3 月)及び当該国家試験合格(6 人目)

		第3代消防署長 住野晃久 退任
	4月	第4代消防署長 東正通 就任 消防吏員服制規定の改正によりアホ° ロキヤッ°、活動服及び盛夏服貸与
平成15年	1月	県ト° ターへリ運航開始(基地病院 和歌山県立医科大学附属病院)
	3月	高野小森川ト° の非常通報装置等の通報等に関する協定の締結
	4月	1日、那智勝浦町消防本部潜水隊発足、那智勝浦町消防署に配置
平成16年	3月	第5代消防長 森本桂司 退任
	4月	第6代消防長 楠本實 就任
	7月	第20回和歌山県消防ホ° ソ° 操法大会出場(於・橋本市) 小型ホ° ソ° の部(第4分団)、ホ° ソ° 車の部(第1分団)ともに優勝、当日、雷雨により一時中断され、後半の部が8月1日和歌山市に於いて開催
	11月	第19回全国消防操法大会出場(於・横浜市国際総合競技場) 小型ホ° ソ° の部 入賞・敢闘賞受賞(那智勝浦町消防団)
	12月	昭和53年12月配置の梯子付消防ホ° ソ° 自動車廃車
平成17年	3月	消防署に2台目の高規格救急自動車配置(ト° タ TC-VCH3 8S型、4WD、3,370cc)
	4月	救急救命士受験資格取得研修(平成16年10月～平成17年3月)及び当該国家試験合格(7人目)
	10月	第17回全国女性消防操法大会出場(於・横浜市)
	12月	1日、下里コミュニティ消防センター 竣工(鉄骨造2階建、延97.90平方尺)
平成18年	3月	23日、携帯119直接受信システム運用開始
	4月	1日、消防本部・消防署の機構改編
	7月	第21回和歌山県消防ホ° ソ° 操法大会出場(於・御坊市)ホ° ソ° 車の部(第7分団)3位入賞
平成19年	3月	本部に司令広報車配置(日本消防協会寄贈)、昭和63年配備、司令広報車廃車 第6代消防長 楠本實 退任
	4月	第7代消防長 東正通 就任 第5代消防署長 小脇邦雄 就任 救急救命士受験資格取得研修(平成18年9月～平成19年3月)及び当該国家試験合格(8人目)
	8月	30日、第4分団井関車庫 竣工(鉄骨平屋建、延24.92平方尺)

	10月	16日、和歌山県消防協会会長に消防団長 永田宏 就任
	11月	第2分団(勝浦)にCD- 型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞBKG-NLS85AN型)、小型動力ポンプ(トハツV20E型、C-1級)各1台配置 第5分団(宇久井)にCD- 型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞBKG-NLS85AN型)を1台配置
平成20年	4月	1日、勝浦認定こども園幼年消防クラブ 結成
平成21年	4月	消防署に救助工作車 型(三菱U-FK618GZW改型)置配(愛知県西春日井広域事務組合消防本部寄贈) 救急救命士受験資格取得研修(平成20年9月～平成21年3月)及び当該国家試験合格(9人目)
	9月	第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツVC52BS型、B-3級)配置
平成22年	3月	消防署に高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S型、4WD、2,690cc)配置
	9月	3日、消防団第4分団に小型動力ポンプ付積載車(いすゞBKG-NHS85A型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(シブウラSF756AZ型、B-2級)各1台を総務省消防庁より借受29日、消防団第3分団に小型動力ポンプ(トハツVF53AS型、B-3級)1台配置 同日、消防団第7分団に小型動力ポンプ(トハツVF53AS型、B-3級)2台配置
	10月	救急救命士受験資格取得研修(平成22年4月～10月)
平成23年	1月	消防団第6分団に小型動力ポンプ付き積載車(いすゞBKG-NHS85A型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(トハツVF53AS、B-3級)配置
	3月	東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊派遣、派遣地は宮城県石巻市及び女川町第一次隊3月12日～17日(6日間)、第二次隊3月15日～20日(6日間)、出勤車両、化学車1台、主な活動内容は救助活動 第7代消防長 東正通 退任
	4月	第8代消防長 小脇邦雄 就任 第6代消防署長 中嶋秀和 就任 救急救命士受験資格取得研修(平成22年4月～10月)に係る当該国家試験合格(10人目)
	9月	4日、台風12号による災害が発生(死者28人、行方不明者1人、全壊103棟、大規模半壊105棟、半壊800棟、一部破損440棟)
	11月	消防署に気象観測装置設置
	12月	消防署に小型動力ポンプ(トハツV20E型、C-1級)1台配置

		第7分団(浦神)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイト EBD-S211P 型)、小型動力ポンプ (トハツ VC52BS 型、B-3 級) 各1台配置 消防団災害対策用資器材(フェンソー)7機配置
平成24年	2月	第7分団(下里)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M 型)、小型動力ポンプ (トハツ V25AS 型、B-3 級)、小型動力ポンプ (元ツト P455DAN 型、B-3 級) 各1台配置 湯川地区 甫子浦に防災倉庫設置
	3月	消防署に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M 型)1台配置 消防団災害対策用資器材(発電機等)防災倉庫に配置
	9月	救急救命士受験資格取得研修(平成24年9月～平成25年3月)
	11月	消防署に後方支援車(トヨタ CBF-TRH226K 型)1台配置
	12月	第1分団(勝浦)に CD-1 型、A-2 級、水槽付(900ℓ)消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M 型)1台配置 第8分団(南大居)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M 型)、小型動力ポンプ (トハツ V25AS 型、B-3 級) 各1台配置
	2月	第7分団(下里)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイト EBD-S211P 型) 1台配置
平成25年	3月	第8代消防長 小脇邦雄 退任
	4月	第9代消防長 中嶋秀和 就任 第7代消防署長 塩崎文二 就任 救急救命士受験資格取得研修(平成24年9月～平成25年3月)に係る当該国家試験合格(11人目)
	12月	消防署に軽積載車(三菱 GBD-U62THNSE7 型)1台配置
平成26年	2月	第3分団(天満)と第4分団(天満)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞエルフ TDG-NMS85AN 型)各1台配置 第3分団(二河)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイト EBD-S211P)、小型動力ポンプ (トハツ VF53AS 型、B-3 級) 各1台配置
	3月	第4分団(市野々)に小型動力ポンプ付き軽積載車(双キ EBD-DA64V、658cc)、小型動力ポンプ (元ツト Fi8000AS 型、B-2 級) 各1台を総務省消防庁より借受 朝日地区 消防本部庁舎裏に防災倉庫設置 第9代消防長 中嶋秀和 退任
	4月	第10代消防長 塩崎文二 就任 第8代消防署長 江崎光洋 就任

	7月	消防署にボートトレーラー（ワックス社製、BOAT 14FW-GW）1台配備
	9月	救急救命士受験資格取得研修（平成26年9月～平成27年3月）
平成27年	2月	消防署に高規格救急自動車（トヨタ CBF-TRH226S 型、4WD、2,693cc）配置
	3月	救急救命士受験資格取得研修（平成26年9月～平成27年3月）に係る当該国家試験合格（12人目） 第10代消防長 塩崎文二 退任
	4月	第11代消防長 江崎光洋 就任 第9代消防署長 峯幸生 就任
平成28年	3月	消防救急デジタル無線、消防救急指令装置運用開始 第11代消防長 江崎光洋 退任
	4月	第12代消防長 峯幸生 就任 第10代消防署長 阪本幸男 就任
	7月	第26回和歌山県消防ポンプ操法大会出場（於・和歌山市）小型ポンプの部（第8分団）準優勝
	12月	消防署に水槽付き消防ポンプ自動車（日野 SDG-GX7JGAA 型、4WD、6,403 cc）配置
平成29年	3月	第12代消防長 峯幸生 退任
	4月	第13代消防長 阪本幸男 就任 第11代消防署長 湯川辰也 就任

管内案内図



平成29年4月1日現在	
面積	183.31km ²
人口	15,859人
男	7,362人
女	8,497人
世帯	8,031世帯

	消防本部・消防署
	消防団本部
	消防分団屯所

町人口に外国人登録者人（平成29年4月1日現在）を含めています。

總務編

消防予算と消防職員の概要

1 消防予算と消防職員数

平成29年度における本町一般会計当初予算額は8,612,300千円で、うち消防費は568,039千円、これの一般会計に占める割合は、6.6%（前年度8.2%）となっている。

一方、消防白書によれば、平成26年度の1世帯当たりの消防費決算額の全国平均額は37,710円（前年度35,621円）であり、住民一人当たりでは16,590円（前年度15,518円）となっている。

これに対し、平成29年4月1日現在の本町人口は15,859人（外国人登録含む。）、世帯数は8,031世帯で、1世帯当たりの平成29年度当初予算の消防費は70,731円（前年度89,038円）となり、住民一人当たりでは、35,818円（前年度44,602円）と、全国平均値より高くなっている。

また、平成29年4月1日現在の消防職員数は40人で、常備消防費における職員一人当たりの予算額は8,329千円である。また、消防団員数は240人で、非常備消防費における団員一人当たりの予算額は207千円となる。

なお、常備消防費における人件費は約87.0%と、その大半を占め、同様に非常備消防費は約53.7%である。また、消防費全体の人件費は約55.8%となっている。

2 消防職員の年齢構成

消防白書によれば、全国の消防職員の平均年齢は、平成27年4月1日現在38.6歳と一般行政職の42.5歳よりやや低くなっている。

平成29年4月1日現在の本町消防職員の平均年齢は36.4歳と全国平均より低く、年齢構成は40歳以上の職員が42.5%を占めている。

消防職員階級別年令表

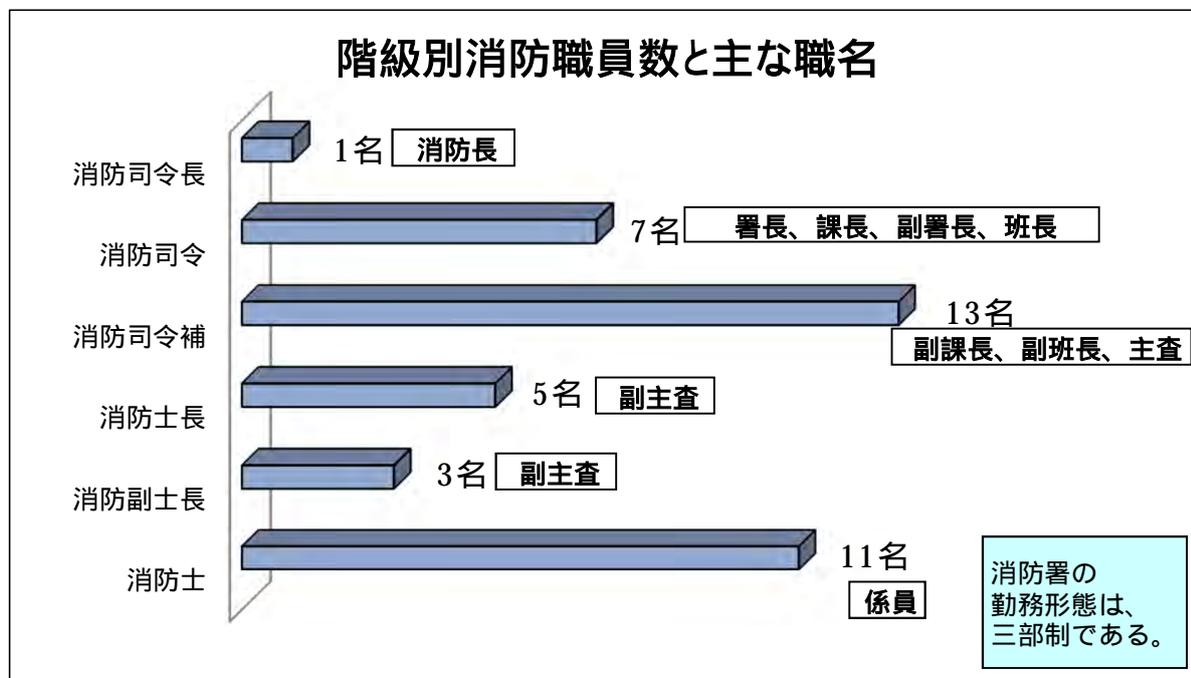
平成29年4月1日

年齢 \ 階級	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
55歳以上	1	1					2名
50～54歳		3					3名
45～49歳		3					3名
40～44歳			9				9名
35～39歳			4	1			5名
30～34歳				4	1		5名
25～29歳					2	2	4名
20～24歳						7	7名
18～19歳						2	2名
合計	1名	7名	13名	5名	3名	11名	40名

3 消防職員の階級と職名

消防職員や警察官、自衛官には、階級がある。階級は、火災防ぎょ活動や救助活動など、いわゆる部隊行動として行う必要があるため、それを指揮統率していく上で必要なものであり、本町消防吏員の階級は、消防庁が昭和37年に定めた「消防吏員の階級の基準」に従い、消防司令長、消防司令、消防司令補、消防士長、消防副士長及び消防士の6階級制となっている。

また、各階級別の人数及び主な職名は、次表のとおりである。



4 消防職員の勤続年数

平成29年4月1日現在の勤続年数別職員数は、次表に示すとおり25年以上の職員が約22.5%を占めている。

勤続年数別消防職員数（本町消防歴）

年数 \ 階級	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
5年未満					1	10	11名
5年～9年				1	2	1	4名
10年～14年				4			4名
15年～19年			5				5名
20年～24年			7				7名
25年～29年		6	1				7名
30年以上	1	1					2名
合計	1名	7名	13名	5名	3名	11名	40名

一般会計予算と消防予算

(単位：千円)

年度	区分	一般会計	消防費	比率
平成25年度		9,238,800	565,953	6.1%
平成26年度		8,359,300	557,873	6.7%
平成27年度		7,977,404	752,674	9.4%
平成28年度		8,790,600	720,493	8.2%
平成29年度		8,612,300	568,039	6.6%

消防費の予算内訳及び前年度との比較

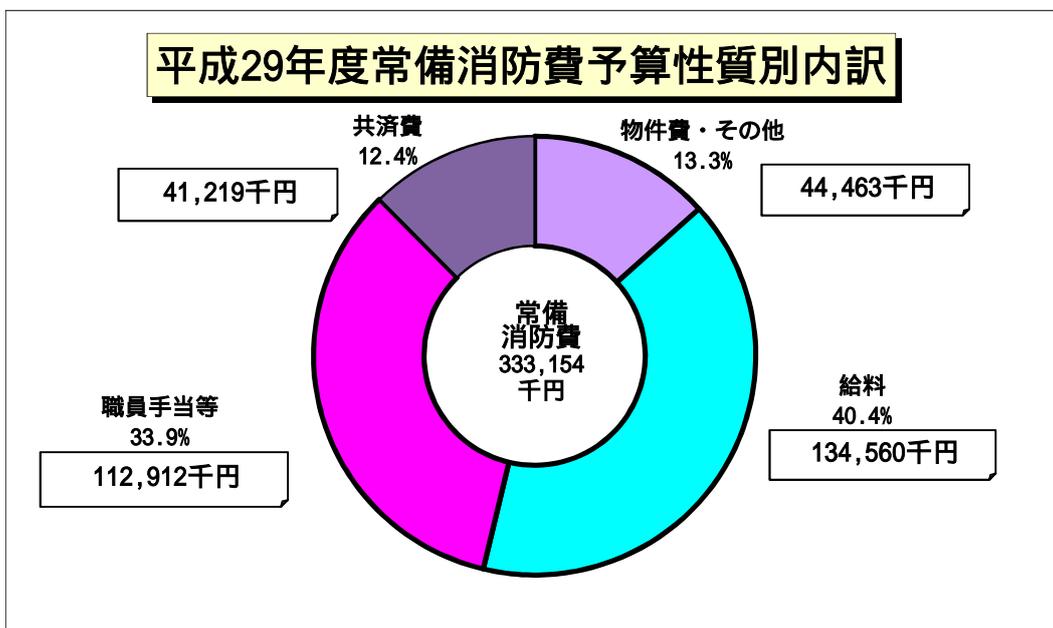
(単位：千円)

区分	年度	平成29年度 当初予算額	平成28年度 当初予算額	増減()
町	一般会計	8,612,300	8,790,600	178,300
	消防費	568,039	720,493	152,454
内 訳	常備消防費	333,154	332,519	635
	非常備消防費	49,676	50,409	733
	消防施設費	25,971	95,172	69,201
	水防費	9,378	23,251	13,873
	災害対策費	149,860	219,142	69,282

消防費に係る人件費割合 51.1%

常備消防費に係る人件費割合 87.1%

平成29年度常備消防費予算性質別内訳



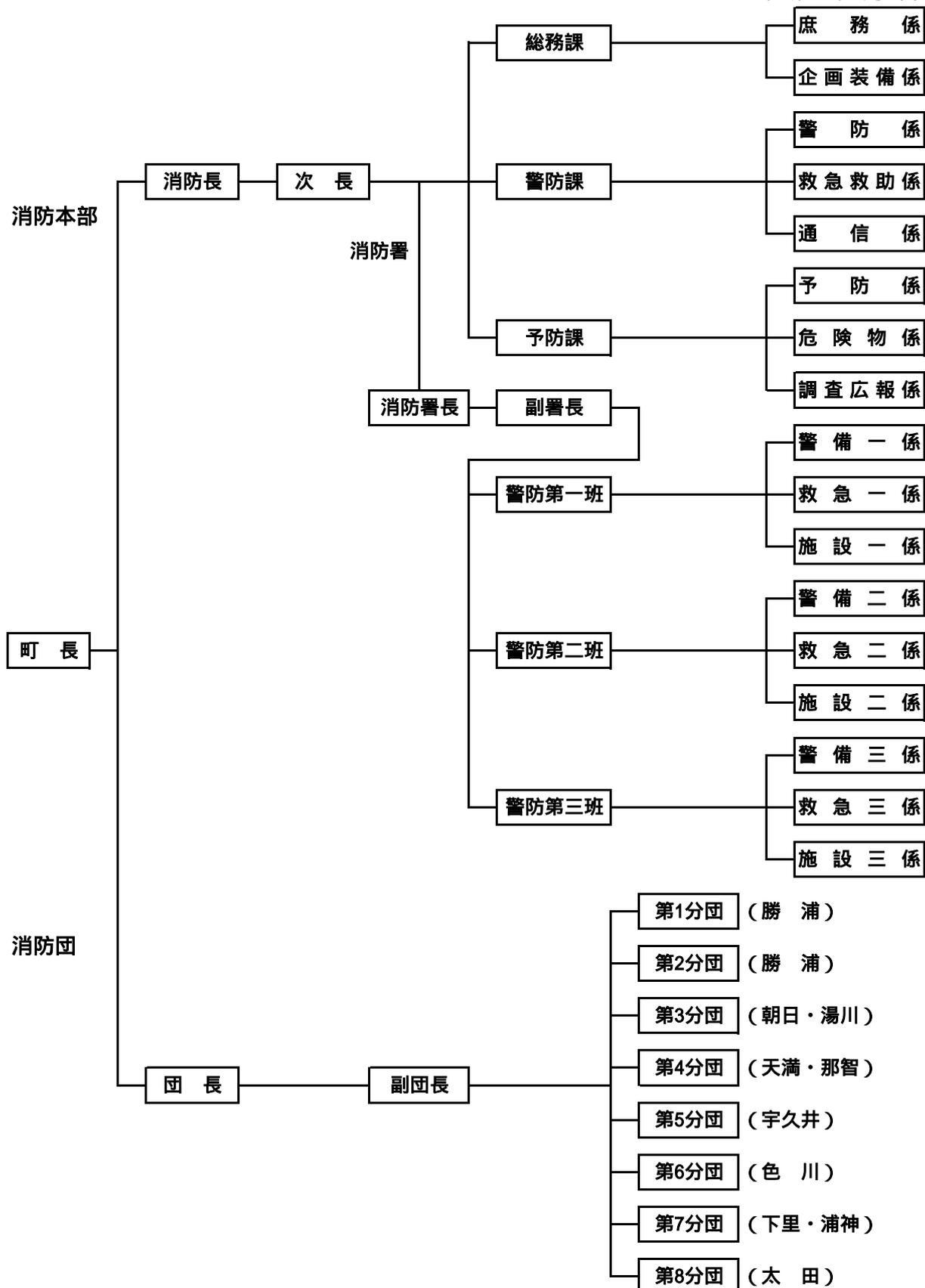
消防費基準財政需要額

平成27年度 299,540千円

平成28年度 283,517千円

消 防 組 織 図

平成29年4月1日



歴代消防長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	山縣 格	S50. 4. 1 ~ S56.10.13	町長兼任
2代	生駒倫造	S56.10.14 ~ S59. 3.31	町長兼任
3代	岩淵芳一	S59. 4. 1 ~ H 2. 3.31	
4代	田原道夫	H 2. 4. 1 ~ H 9. 3.31	
5代	森本桂司	H 9. 4. 1 ~ H16. 3.31	
6代	楠本 實	H16. 4. 1 ~ H19. 3.31	
7代	東 正通	H19. 4. 1 ~ H23. 3.31	
8代	小脇邦雄	H23. 4. 1 ~ H25. 3.31	
9代	中嶋秀和	H25. 4. 1 ~ H26. 3.31	
10代	塩崎文二	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31	
11代	江崎光洋	H27. 4. 1 ~ H28. 3.31	
12代	峯 幸生	H28. 4. 1 ~ H29. 3.31	
13代	阪本幸男	H29. 4. 1 ~ 現在	

歴代消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	岩淵芳一	S50. 4. 1 ~ S59. 3.31	
2代	田原道夫	S59. 4. 1 ~ H 3. 7.31	
3代	住野晃久	H 3. 8. 1 ~ H14. 3.31	
4代	東 正通	H14. 4. 1 ~ H19. 3.31	
5代	小脇邦雄	H19. 4. 1 ~ H23. 3.31	
6代	中嶋秀和	H23. 4. 1 ~ H25. 3.31	
7代	塩崎文二	H25. 4. 1 ~ H26. 3.31	
8代	江崎光洋	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31	
9代	峯 幸生	H27. 4. 1 ~ H28. 3.31	
10代	阪本幸男	H28. 4. 1 ~ H29. 3.31	
11代	湯川辰也	H29. 4. 1 ~ 現在	

消防本部の事務分掌

総務課

庶務係・企画装備係

- 1 人事及び給与に関すること。
- 2 消防本部の重要施策に関すること。
- 3 儀式に関すること。
- 4 公印、文書に関すること。
- 5 予算、決算及び会計に関すること。
- 6 公務災害補償に関すること。
- 7 福利厚生に関すること。
- 8 消防用財産の取得、管理及び処分に関すること。
- 9 消防団に関すること。
- 10 消防長会及び消防協会に関すること。
- 11 消防車両及び機器の整備に関すること。
- 12 他の課、係に属しないこと。

予防課

予防係・危険物係・調査広報係

- 1 建築確認の同意に関すること。
- 2 消防用設備に関すること。
- 3 建築物、工作物等の火災及び人命危険の予防措置に関すること。
- 4 電気設備及び火気使用設備の火災予防措置に関すること。
- 5 危険物製造所等の許認可に関すること。
- 6 危険物製造所等の火災及び人命危険の予防措置に関すること。
- 7 少量危険物及び準危険物の火災予防措置に関すること。
- 8 高圧ガス、火薬類、核燃料物質、放射性同位元素、劇毒物等の火災予防措置に関する
こと。
- 9 違反消防対象物の処理に関すること。
- 10 消防対象物の査察に関すること。
- 11 屋外における火災予防措置に関すること。
- 12 たき火又は喫煙の制限区域の指定に関すること。
- 13 火災の原因及び損害の調査・報告に関すること。
- 14 広報企画に関すること。
- 15 刊行物等による広報に関すること。
- 16 消防報道に関すること。
- 17 報道機関との連絡に関すること。
- 18 広報結果の確認及び分析に関すること。
- 19 防火・防災管理制度に関すること。
- 20 防火・防災管理者の講習、資格管理及び指導育成に関すること。
- 21 共同防火・防災管理に関すること。
- 22 消防計画、事業所消防活動計画及び防火・防災管理業務の指導に関すること。
- 23 自衛消防隊の訓練指導に関すること。
- 24 火薬類の規制事務に関すること。
- 25 高圧ガスの規制事務に関すること。
- 26 液化石油ガスの規制事務に関すること。
- 27 屋外催しに係る防火管理に関すること。

警 防 課

警防係・救急救助係・通信係

- 1 警防本部等の運営に関する事。
- 2 災害現場の指揮及び支援に関する事。
- 3 消防戦術の研究及び消防部隊の運用管理に関する事。
- 4 水防に関する事。
- 5 消防作業等従事者の損害補償に関する事。
- 6 救助対策に関する事。
- 7 救助技術の研究及び指導に関する事。
- 8 震災時の火災拡大防止及び人命安全確保に関する事。
- 9 特殊災害の調査研究及び消防活動対策に関する事。
- 10 救急業務の計画及び調査に関する事。
- 11 救急記録に関する事。
- 12 救急業務協力者に係る損害補償に関する事。
- 13 救急隊員の指導及び訓練に関する事。
- 14 住民の救急相談及び救急指導に関する事。
- 15 医療機関との連絡に関する事。
- 16 消防通信及び消防関係電話に関する事。
- 17 災害通信の運用、通信統制及び指導に関する事。
- 18 指令管制装置に関する事。
- 19 消防水利の設置に関する事。
- 20 消防水利の対策及び開発に関する事。
- 21 消防相互応援協定に関する事。
- 22 県防災ヘリコプターに関する事。
- 23 消防艇に関する事。
- 24 那智勝浦町消防計画及び那智勝浦町地域防災計画に関する事。
- 25 防災関係機関との連絡調整に関する事。
- 26 防火及び防災教育に関する事。
- 27 老人等の防災指導及び防災福祉に関する事。
- 28 児童生徒に対する防火、防災教育に関する事。

消防署の事務分掌

警備係・救急係・施設係

- 1 火災等の警防に関する事。
- 2 火災の原因及び損害の調査に関する事。
- 3 救助に関する事。
- 4 救急に関する事。
- 5 水防に関する事。
- 6 消防水利に関する事。
- 7 警防対策及び訓練、演習に関する事。
- 8 消防通信運用に関する事。
- 9 消防機器の運用技術に関する事。
- 10 県防災ヘリコプターの要請に関する事。
- 11 消防艇の運航に関する事。
- 12 町民の生活安全及び防災福祉に関する事。

消防職員の勤務時間表

区 分		毎 日 勤 務	交 替 制 勤 務	
拘束時間	1 日	8時間45分	日勤日	8時間45分
	1当番	—————		24時間00分
	1週間	43時間45分		58時間55分
勤務時間	1 日	7時間45分	日勤日	7時間45分
	1当番	—————		15時間30分
	1週間	38時間45分		38時間45分

消防職員の特殊勤務手当

交 替 制 勤 務 手 当		1当務	500円
救急出動手当	救急隊員	1回	200円
	救急救命士	1回	300円

消防職員教養実施状況

平成29年4月1日

区 分		年 度	S50 ~ H23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28
消防大学校	上級幹部科	4						
	警防科	1						
救急救命士 研修所	救急救命研修 (東京研修所)	8	1		1			
	救急救命研修 (九州研修所)	2						
	薬剤投与追加講習	5						
	指導救命士養成研修							1
南和歌山医療センター 日赤和歌山医療センター	救急救命士 拡大2行為追加講習				3	9		
和歌山県 消防学校	初任教育	33	1	3	2	2	1	
	救急専科	23						
	救急 課程	1						
	救急 課程	22						
	救急標準課程	14	1	2	2	2	1	
	特別教育 救命士気管挿管講習	5						
	救助専科	12	1		1			
	警防専科	8	1			1		
	現任教育	2						
	梯子教育	6						
	火災調査科	6		1		1		
	初級幹部教育	2	1		1			
	中級幹部教育	6		1		1		
	上級幹部教育	2			1			
	特殊災害専科	2			1			
予防査察科			1					
大阪市 消防学校	初任教育	5						
	救急専科	4						
大阪府立 消防学校	初任教育	4						
京都市 消防学校	初任教育	4						
奈良県 消防学校	初任教育	6						
自動車安全 運転センター	消防緊急自動車 運転技能研修	6						
鈴鹿サーキット 交通教育センター	緊急自動車運転士 安全講習	11	1	1	1	1	1	

統計内容は、昭和39年以降の当本部実績となっております。

消防職員資格取得状況

平成29年4月1日

資 格		計
自動車 運転 免許	大 型 特 殊	1 名
	大 型 第 1 種	12 名
	けん引	1 名
	中 型 第 1 種	15 名
	中型第1種（8t未満）	6 名
	普 通 免 許	7 名
小型船舶操縦士	1 級	0 名
	2 級	10 名
救急 隊員 資格	救 急 課 程	6 名
	救 急 標 準 課 程	16 名
	救 急 救 命 士	15 名
	指 導 救 命 士	1 名
准 看 護 師		1 名
救 助 専 科		11 名
特 殊 無 線 技 士		36 名
危険物 取扱者	甲 種	0 名
	乙 種	11 名
	丙 種	1 名
毒物劇物取扱者（一般）		1 名
足場組立等作業主任者		2 名
小型移動式クレーン		14 名
玉 掛 技 能 者		14 名
潜 水 士		18 名
救 急 再 圧 員		1 名
潜水技術指導課程修了		1 名
潜水技術基礎・応用課程修了		3 名
警戒船管理・業務講習		5 名
予防技 術資格 者	防 火 査 察 専 門 員	8 名
	消 防 用 設 備 等 専 門 員	7 名
	危 険 物 専 門 員	5 名

消防職員数の推移

平成29年4月1日

年 度	消防職員数		備 考
	定 数	実 員	
昭和50年 4月	20名	20名	那智勝浦町消防本部・署発足6月1名減、昭和51年2月1名増
昭和51年 4月	30名	26名	昭和51年3月定数30名に増、4月6名増
昭和52年 4月	30名	26名	5月4名増
昭和54年 4月	30名	30名	6月1名減
昭和57年 4月	30名	29名	7月1名減・2名増
昭和63年 4月	30名	29名	10月定数32名に増・2名減3名増
平成元年 4月	32名	30名	4月2名増・10月2名減
平成 2年 4月	32名	29名	4月1名減・6月1名減・1名増
平成 3年 4月	32名	29名	
平成 4年 4月	32名	31名	4月2名増
平成 5年 4月	32名	31名	
平成 6年 4月	32名	32名	4月1名増
平成 7年 4月	32名	32名	10月定数40名に増
平成 8年 4月	40名	35名	4月3名増
平成 9年 4月	40名	36名	4月2名減・3名増
平成10年 4月	40名	38名	4月2名増
平成11年 4月	40名	39名	4月1名増
平成12年 4月	40名	38名	4月1名減
平成13年 4月	40名	38名	4月1名減・1名増
平成14年 4月	40名	38名	4月1名減・1名増
平成15年 4月	40名	39名	4月1名減・2名増
平成16年 4月	40名	40名	4月1名減・2名増
平成17年 4月	40名	39名	4月1名減
平成18年 4月	40名	39名	
平成19年 4月	40名	39名	4月1名減・1名増
平成20年 4月	40名	39名	
平成21年 4月	40名	39名	
平成22年 4月	40名	39名	10月1名増
平成23年 4月	40名	39名	4月3名減・2名増
平成24年 4月	40名	40名	4月1名増
平成25年 4月	40名	40名	4月3名減・3名増
平成26年 4月	40名	40名	4月2名減・2名増
平成27年 4月	40名	40名	4月2名減・2名増
平成28年 4月	40名	40名	4月1名減・1名増
平成29年 4月	40名	40名	4月3名減・3名増

消防拠点施設等一覧

平成29年4月1日

	名称	所在地	建築年月日	築年数	建物構造	床面積
1	消防本部(署)庁舎	朝日1丁目69番地	昭和50年10月	41年	鉄筋コンクリート2階建	661.18㎡ (1F:354.05㎡、2F:307.13㎡)
2	防災倉庫	朝日1丁目68番地 (消防本部敷地内)	平成26年2月	3年	ヨドコウ物置 ヨド蔵MD	9.24㎡
3	防災倉庫	湯川甫子浦	平成24年2月	5年	ヨドコウ物置 LMC-2922GL	6.45㎡
4	那智勝浦町コミュニティ消防センター(団本部、第1、第2分団共用)	勝浦89番地8	平成11年3月	18年	鉄骨造2階建	553.02㎡ (1F:287.89㎡、2F:274.13㎡)
5	第3分団屯所	天満728番地1	昭和56年3月	36年	鉄骨造2階建	105.60㎡ (1F:49.50㎡、2F:56.10㎡)
6	第3分団二河車庫 (二河地域防災資機材備蓄施設)	二河91番地3	平成8年3月	21年	木造平屋建	24.09㎡
7	第4分団屯所 (天満コミュニティ消防センター)	天満151番地3	昭和51年8月 平成6年3月	40年 23年	一部鉄骨平屋建(車庫) 木造平屋建(屯所)	46.98㎡ 38.12㎡
8	第4分団 井関車庫	井関847番地5	平成19年8月	9年	鉄骨平屋建	24.92㎡
9	第4分団 市野々車庫	市野々2745番地	平成5年12月	23年	木造平屋建 (団員奉仕建設)	15.68㎡
10	第5分団屯所 (宇久井コミュニティ消防センター)	宇久井113番地	昭和45年12月 平成4年3月	46年 25年	1Fコンクリートブロック造 2F鉄骨造	63.06㎡ (1F:34.39㎡、2F:28.66㎡)
11	第6分団屯所 (色川コミュニティ消防センター)	大野2457番地4	昭和48年10月 平成4年12月	43年 24年	1Fコンクリートブロック造 2F鉄骨造	53.73㎡ (1F:24.15㎡、2F:29.58㎡)
12	第6分団 小阪車庫	小阪2340番地1 (小阪集会所敷地内)	平成10月4月	19年	木造平屋建 (団員奉仕建設)	12.60㎡
13	第7分団 下里天満車庫	下里2599番地1			木造平屋建	14.06㎡
14	第7分団屯所 (下里コミュニティ消防センター)	下里437番地1	平成17年11月	11年	鉄骨造2階建	97.90㎡
15	第7分団 浦神東車庫	浦神1060番地1	昭和51年7月	40年	コンクリートブロック造	23.38㎡
16	第7分団 浦神西器具庫	浦神306番地1	昭和60年7月	31年	軽量鉄骨平屋建	9.72㎡
17	第8分団屯所 (太田コミュニティ消防センター)	南大居563番地	平成4年3月	25年	鉄骨2階建	64.97㎡ (1F:34.76㎡、2F:30.21㎡)

主力機械配置表

平成29年4月1日

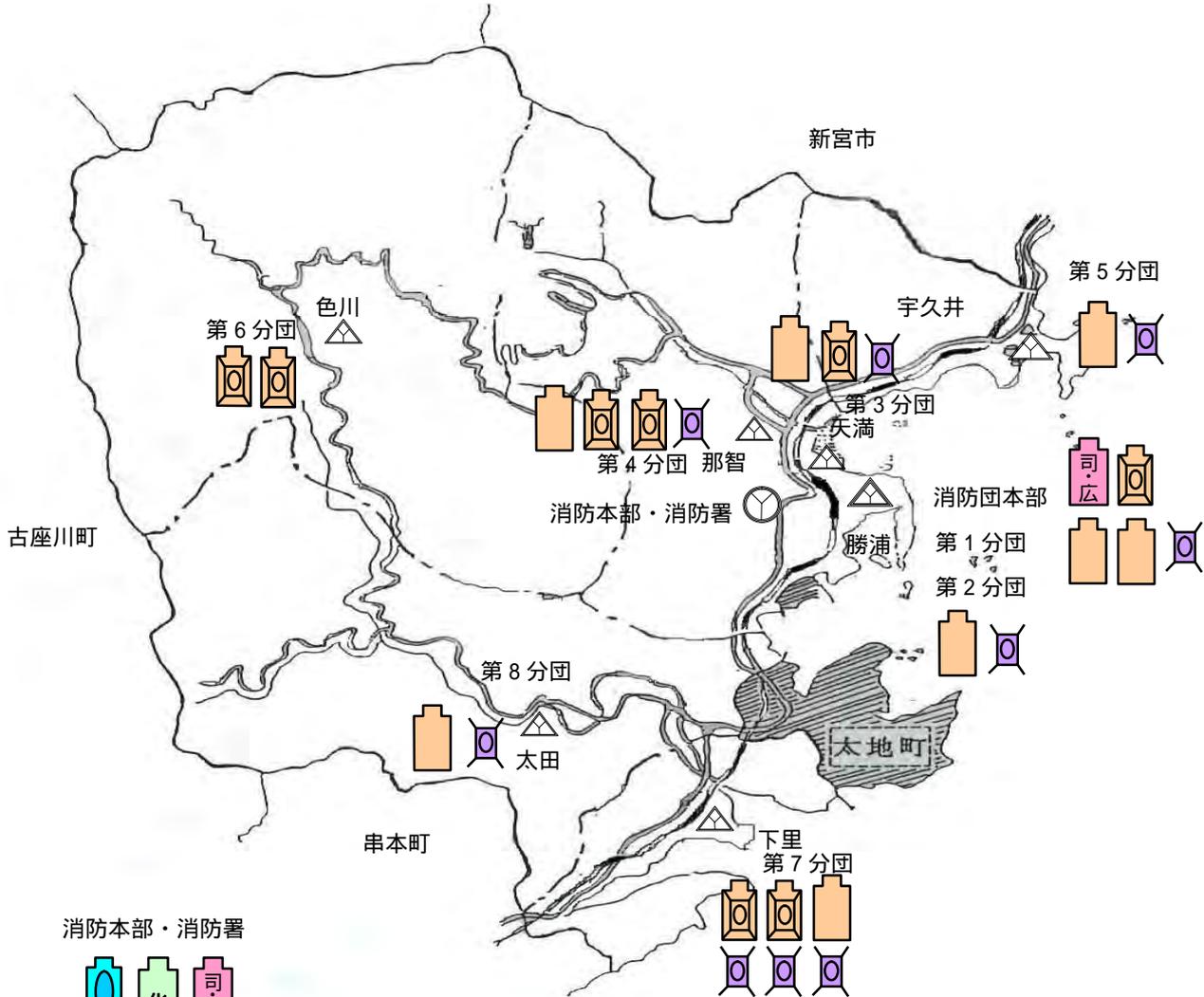
所属		種別	タンク車	ポンプ車	化学車	司令 広報車	救急車	普・軽 積載車	小型 ポンプ	消防艇	その他	計
消防本部 消防署	消防本部					2		1	1	1	1	車両 11 消防艇1 機械1
	消防署	1	2	1			2				1	
	計	1	2	1	2	2	1	1	1	2	13	
消防団	団本部					1		1	1			車両17 機械17
	第1分団		2						1			
	第2分団		1						1			
	第3分団		1					1	2			
	第4分団		1					2	3			
	第5分団		1						1			
	第6分団							2	2			
	第7分団		1					2	5			
	第8分団		1						1			
	計		8			1		8	17			
合計		1	10	1	3	2	9	18	1	2	47	

主力機械の経過年数

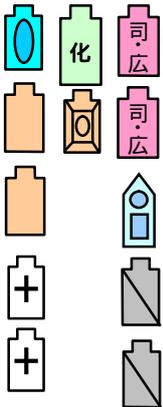
平成29年4月1日（単位：台）

所属	種別	年数					計
		5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	
消防本部 消防署	車両等	5	2	1	2	2	12
	機械		1				1
	計	5	3	1	2	2	13
消防団	車両等	7	6		2	2	17
	機械	4	10	2	1		17
	計	11	16	2	3	2	34
計	車両等	12	8	1	4	4	29
	機械	4	11	2	1		18
	合計	16	19	3	5	4	47

主力機械配置状況



消防本部・消防署



	タンク車		化学車		小型ポンプ付き 積載車
	ポンプ車		司令広報車		小型ポンプ
	救急車		消防艇		その他車両

主力機械諸元表

平成29年4月1日

NO.	所属	配置場所	種別	登録番号及び無線識別信号	シャーシメーカー	ポンプメーカー	級別	排気量	機関出力	年式	搭乗定員	配備年月日	備考
1	消防部	朝日1丁目69番地	司令広報車	和歌山88に2268 かつうら しき1	トヨタ			ディーゼル 2,980cc	130ps	H.10	5人	H10.03.27	全日本消防人共済会寄贈
2	消防部	朝日1丁目69番地	司令広報車	和歌山800さ6248 かつうら しき2	三菱			ガソリン 1,990cc	114ps	H.19	5人	H19.02.26	日本消防協会寄贈
3	消防部	朝日1丁目69番地	小型動力ポンプ 付積載車	和歌山880あ1329 かつうら11	三菱		軽自動車	ガソリン 658cc	35ps	H.25	2人	H25.12.20	
4			搭載ポンプ			トーハツ	C-1	198cc	12ps	H.23		H23.12.08	
5	消防部	朝日1丁目69番地	消防艇	252-24983 かつうら はくりゅう1	主機GM	ナニワ	18t級	ディーゼル 12,061cc × 2	主機 490ps × 2 補機 26ps × 1	S.62	13人	進水 S62.12.21 竣工 S63.01.09	総トン数19t 放水砲5,000ℓ型2基 放水砲3,000ℓ型1基 集合放水口 12口
6	消防部	朝日1丁目69番地	後方支援車	和歌山800さ9052 かつうら12	トヨタ			ガソリン 2,693cc	150ps	H.24	6人	H24.11.21	
7	消防署	朝日1丁目69番地	タンク車	和歌山800は1053 かつうら1	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 6,403cc	220ps	H.28	6人	H28.12.15	水1.5トン
8	消防署	朝日1丁目69番地	ポンプ車	和歌山800さ8780 かつうら2	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,000cc	110ps	H.24	5人	H24.03.26	水0.6トン
9	消防署	朝日1丁目69番地	ポンプ車	和歌山88す6941 かつうら3	いすゞ	日本ドライ ケミカル	A-1	ディーゼル 4,570cc	140ps	H.10	6人	H10.11.30	損保寄贈CD-1
10	消防署	朝日1丁目69番地	化学車	和歌山88ゆ1189 かつうら5	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 8,226cc	210ps	H.09	7人	H09.01.12	水1.5トン泡600ℓ
11	消防署	朝日1丁目69番地	救急車	和歌山800さ7851 かつうら91	トヨタ		高規格	ガソリン 2,690cc	150ps	H.22	7人	H22.03.25	
12	消防署	朝日1丁目69番地	救急車	和歌山800す95 かつうら92	トヨタ		高規格	ガソリン 2,693cc	150ps	H.27	7人	H27.02.25	
13	消防署	朝日1丁目69番地	ボート トレーラ	和歌山800る404	ソレックス					H.26		H26.07.28	
14	消防団 本部	勝浦89番地8	司令広報車	和歌山88す5794 かつうらしき3	トヨタ			ガソリン 3,370cc	185ps	H.09	5人	H09.07.10	
15	消防団 本部	朝日1丁目69番地	小型動力ポンプ 付積載車	和88さ5493 かつうら13	トヨタ		普通車	ガソリン 1,626cc	80ps	S.61	8人	S61.08.06	日本消防協会寄贈
16			搭載ポンプ			トーハツ	B-2	617cc	41ps	H.17		H17.08.01	

主力機械諸元表

平成29年4月1日

NO.	所属	配置場所	種別	登録番号及び無線識別信号	シャーシメーカー	ポンプメーカー	級別	排気量	機関出力	年式	搭乗定員	配備年月日	備考
17	消防団第1分団	勝浦89番地8	ポンプ車	和歌山800さ9139 かつうら311	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,009cc	150ps	H.24	8人	H24.12.21	水0.9トン
18	消防団第1分団	勝浦89番地8	ポンプ車	和歌山88す4529 かつうら312	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 4,570cc	140ps	H.07	8人	H07.12.20	
19			搭載ポンプ			トーハツ	C-1	198cc	15ps	H.09		H09.10.28	
20	消防団第2分団	勝浦89番地8	ポンプ車	和歌山800さ6688 かつうら321	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,990cc	150ps	H.19	7人	H19.11.01	
21			搭載ポンプ			トーハツ	C-1	198cc	12ps	H.19		H19.11.01	
22	消防団第3分団	天満728番地1	ポンプ車	和歌山800さ9632 かつうら331	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,999cc	150ps	H.26	7人	H26.02.18	
23			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198cc	12ps	H.26		H26.02.18	
24	消防団第3分団	二河91番地3	小型ポンプ付き積載車	和歌山880あ1358 かつうら332	ダイハツ		軽自動車	ガソリン 658cc	37ps	H.26	4人	H26.02.28	
25			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H.22		H22.09.29	
26	消防団第4分団	天満151番地3	ポンプ車	和歌山800さ9633 かつうら341	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,999cc	150ps	H.26	7人	H26.02.18	
27			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198cc	12ps	H.26		H26.02.18	
28	消防団第4分団	市野々2745番地	小型動力ポンプ付積載車	和歌山880あ1381 かつうら342	スズキ		軽自動車	ガソリン 658cc	36ps	H.26	4人	H26.03.19	総務省消防庁より借受
29			搭載ポンプ			ラビット	B-2	635cc	44ps	H.26		H26.03.19	
30	消防団第4分団	井関847番地5	小型動力ポンプ付積載車	和歌山800さ8103 かつうら343	いすゞ		普通車	ディーゼル 2,990cc	110ps	H.22	6人	H22.09.03	総務省消防庁より借受
31			搭載ポンプ			シバウラ	B-2	618cc	46ps	H.22		H22.09.03	
32	消防団第5分団	宇久井113番地	ポンプ車	和歌山800さ6689 かつうら351	いすゞ	モリタ	A-2	ディーゼル 2,990cc	150ps	H.19	7人	H19.11.01	
33			搭載ポンプ			トーハツ	B-2	617cc	41ps	H.16		H16.10.15	

主力機械諸元表

平成29年4月1日

NO.	所属	配置場所	種別	登録番号及び無線識別信号	シャーシメーカー	ポンプメーカー	級別	排気量	機関出力	年式	搭乗定員	配備年月日	備考
34	消防団第6分団	大野2457番地4	小型動力ポンプ付積載車	和歌山800さ8240 かつうら361	いすゞ		普通車	ディーゼル 2,990cc	110ps	H.23	6人	H23.01.29	
35			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H.22		H23.01.29	
36	消防団第6分団	小阪2340番地1	小型動力ポンプ付積載車	和歌山80あ1607 かつうら362	スバル		軽自動車	ガソリン 658cc	40ps	H.10	4人	H10.03.04	
37			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	617cc	41ps	H.21		H21.09.16	
38	消防団第7分団	下里437番地1	ポンプ車	和歌山800さ8735 かつうら371	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,000cc	150ps	H.23	6人	H24.02.28	
39			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198cc	12ps	H.24		H24.02.28	
40	消防団第7分団	下里2599番地1	小型動力ポンプ付積載車	和歌山880あ1198 かつうら372	ダイハツ		軽自動車	ガソリン 658cc	50ps	H.25	4人	H25.02.20	
41			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H.22		H22.09.29	
42	消防団第7分団	下里2956番地1	小型動力ポンプ			ラビット	B-3	635cc	46ps	H.24		H24.02.17	
43	消防団第7分団	浦神1060番地1	小型動力ポンプ付積載車	和歌山880あ1010 かつうら373	ダイハツ		軽自動車	ガソリン 658cc	53ps	H.23	4人	H23.12.22	
44			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	617cc	41ps	H.23		H23.12.22	
45	消防団第7分団	浦神301番地6	小型動力ポンプ			トーハツ	B-3	526cc	30ps	H.22		H22.09.29	
46	消防団第8分団	南大居563番地	ポンプ車	和歌山800さ9108 かつうら381	日野	モリタ	A-2	ディーゼル 4,009cc	150ps	H.24	8人	H24.12.21	
47			搭載ポンプ			トーハツ	B-3	198cc	12ps	H.24		H24.12.21	

火災編

火災概要

平成 28 年度の火災発生件数は 9 件で、前年度と同数であった。

建物火災は 2 件発生し、焼損程度については、「ぼや」2 件で、2 棟焼損した。

火災による損害額は、973 千円で、前年度に比べ 20,839 千円減少した。

死傷者については、死者 0 名、負傷者 3 名となっている。

出火原因は、「電気配線等からの出火」が多く、次いで「ごみ焼却中に延焼」となっている。

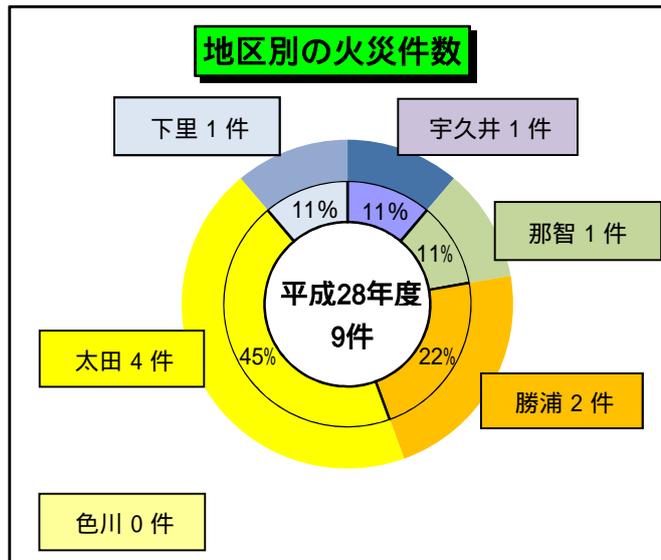
火災概況及び前年度との比較

区分		年度	平成27年度	平成28年度	比較増減
火災件数	建 物		8	2	6
	林 野		0	0	0
	車 輜		0	0	0
	船 舶		0	0	0
	航 空 機		0	0	0
	そ の 他		1	7	6
	計		9	9	0
損 害 額 (千 円)			21,812	973	20,839
焼損棟数	全 焼		3	0	3
	半 焼		1	0	1
	部 分 焼		5	0	5
	ぼ や		3	2	1
	爆 発				0
	計		12	2	10
焼損面積	建 物 (m ²)		307	1	306
	林 野 (a)				0
人的被害	死 者				0
	負 傷 者		4	3	1
り災世帯数			9	0	9
り災人員 (人)			18	0	18
火災1件当り損害額 (千円)			2,424	108	2,316
住民1人当り損害額 (千円)			1.3	0.1	1.2
住民1世帯当り損害額 (千円)			2.6	0.1	2.5
1日平均損害額 (千円)			60	3	57
火災発生間隔 (日)			41	41	0

過去5年間の月別火災発生状況

平成29年3月31日

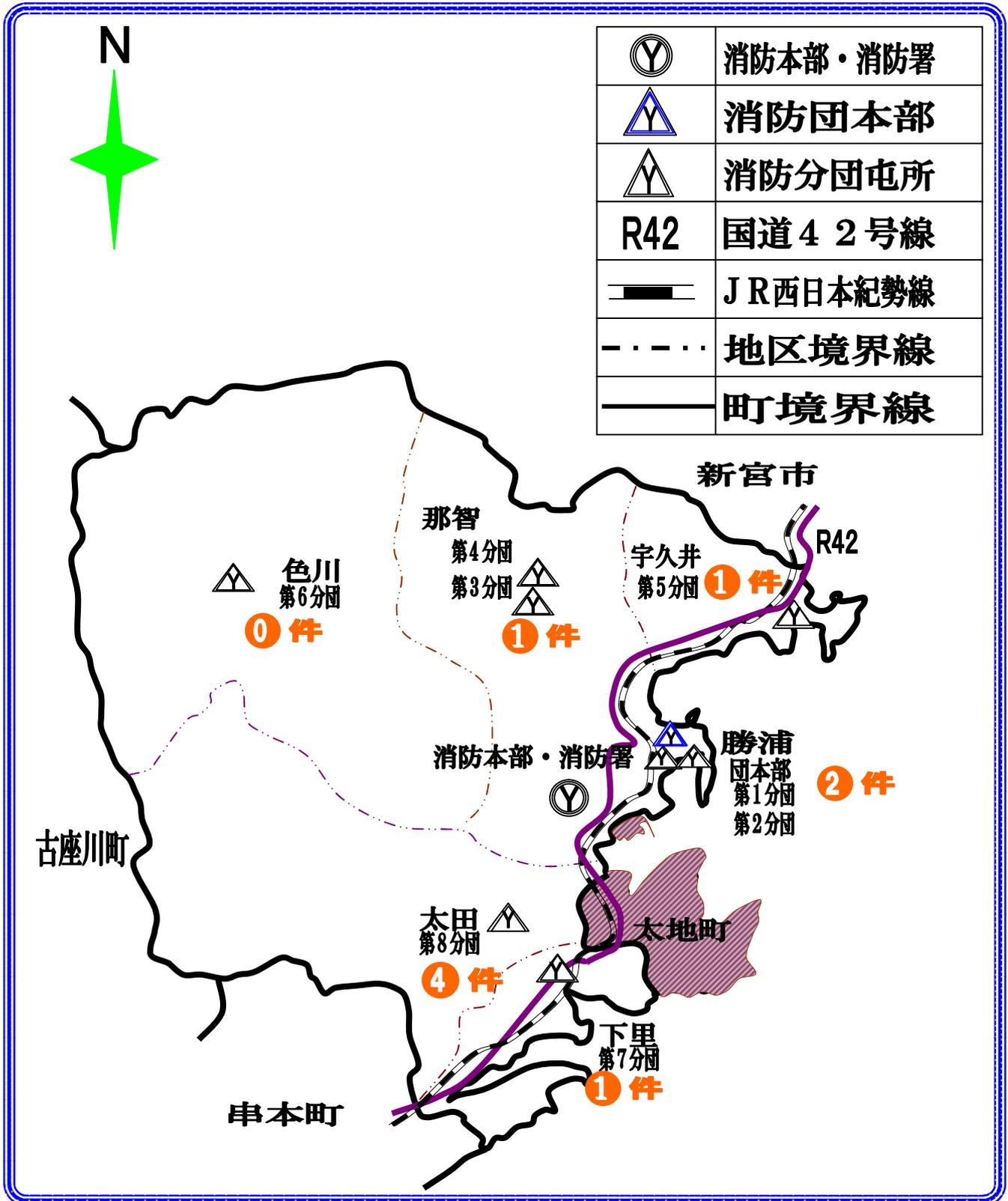
年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年度	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3	2	1	9
平成25年度	0	0	0	0	3	0	0	1	1	4	0	0	9
平成26年度	0	3	1	0	0	1	2	0	2	0	0	1	10
平成27年度	0	0	1	0	2	0	0	1	1	1	1	2	9
平成28年度	1	0	0	1	0	0	1	0	2	2	1	1	9
平均	0.2	0.8	0.6	0.2	1.0	0.2	0.6	0.6	1.2	2.0	0.8	1.0	9.2



平成28年度火災発生状況

NO.	発生日	出火時間	曜日	火災種別	覚知方法	出火場所	出火原因	損害額 (千円)	死者	負傷者	建物焼損 面積 (㎡)	焼損面積 (a)	焼損表面 積等 (㎡)	全 損	半 損	小 損	罹災 世帯	罹災 人員	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	焼 損 棟 数	
1	4/13	17:01	水	その他	事後聞知	勝浦	配線金具が過熱する																	
2	7/15	12:30	金	その他	119 (固定電話)	下里	ガソリン計量機に車が接触したもの	836		2			3											
3	10/15	13:20	土	その他	事後聞知	那智	不明	5																
4	12/25	6:55	日	その他	事後聞知	太田	スプレー缶の爆発			1														
5	12/31	11:10	土	その他	119 (固定電話)	太田	ごみ焼却中に延焼																	
6	1/3	12:55	火	その他	119 (携帯電話)	太田	電気配線から出火	130																
7	1/7	11:50	土	その他	その他	太田	ごみ焼却中に延焼																	
8	2/23	11:09	木	建物	119 (固定電話)	宇久井	電気配線から出火	1			0.7											1	1	
9	3/20	4:40	木	建物	119 (固定電話)	勝浦	不明	1														1	1	
計								973	0	3	0.7	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

地区別火災発生状況



予防・危険物編

予防・危険物の概要

本町には、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された熊野古道があり、「癒」を求めて、多くの観光客が「大門坂」を登り、日本一の名瀑「那智の滝」、熊野三山「熊野那智大社」、西国三十三所観音巡り第一番札所「那智山青岸渡寺」を訪れており、夜は、勝浦温泉と湯川温泉でそれぞれの温泉を楽しみながら宿泊している。

外国人を含む観光客と町民の安全を守るため、旅館・ホテル、危険物施設等の立ち入り検査及び完成検査を年間約 280 回実施し、広報も含めて防火安全対策について指導を行った。

防火対象物

消防法施行令別表第1

項	内 訳
1	イ 劇場、映画館、演芸場又は観覧場
	ロ 公会堂又は集会場
2	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの
	ロ 遊技場又はダンスホール
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗
	ニ カラオケ、個室ビデオ店等
3	イ 待合、料理店その他これらに類するもの
	ロ 飲食店
4	百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場
5	イ 旅館、ホテル又は宿泊所その他これらに類するもの
	ロ 寄宿舎、下宿又は共同住宅
6	イ 病院、診療所又は助産所
	ロ (1)養護老人ホーム等(2)救護施設(3)乳児院(4)障害児入所施設(5)障害者支援施設等
	ハ (1)老人デイサービスセンター等(2)更生施設(3)保育所等(4)児童発達支援センター等(5)身体障害者福祉センター等
	ニ 幼稚園又は特別支援学校
7	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、大学、専修学校、各種学校その他これらに類するもの
8	図書館、博物館、美術館その他これらに類するもの
9	イ 公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類するもの
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場
10	車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場（旅客の乗降又は待合いの用に供する建築物に限る。）
11	神社、寺院、教会その他これらに類するもの
12	イ 工場又は作業場
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ
13	イ 自動車車庫又は駐車場
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫
14	倉庫
15	前各項に該当しない事業場
16	イ 複合用途防火対象物のうち、その一部が（1）項から（4）項まで、（5）項イ、（6）項又は（9）項イに掲げる防火対象物の用途に供されているもの
	ロ イに掲げる複合用途防火対象物以外の複合用途防火対象物
16の2	地下街
16の3	建築物の地階（（16の2）項に掲げるものの各階を除く。）で連続して地下道に面して設けられたものと当該地下道とを合わせたもの（（1）項から（4）項まで、（5）項イ、（6）項又は（9）項イに掲げる防火対象物の用途に供される部分が存するものに限る。）
17	文化財保護法（昭和25年法律第214号）の規程によって重要文化財、重要有形民族文化財、史跡若しくは重要な文化財として指定され、又は旧重要美術品等の保存に関する法律（昭和8年法律第43号）の規定によって重要美術品として認定された建造物
18	延長50メートル以上のアーケード
19	市町村長の指定する山林
20	自治省令で定める舟車

備考 網掛け部分は特定防火対象物で、それ以外は非特定防火対象物を示す。

管内防火対象物の現況及び平成28年度立入検査状況

平成29年3月31日

項	対象物数	防火管理者選任届出件数					中高層建築物	立入検査状況		
		甲種		乙種		選任件数計		延べ件数	延べ人員	
		対象物数	選任件数	対象物数	選任件数					
1	イ	1		1						
	ロ	29	10	9	17	16	25	1	2	6
2	イ	1								
	ロ	1								
	ハ									
	ニ	2			2	2	2		1	3
3	イ									
	ロ	21	6	3	5	4	7	2	1	3
4		17	6	6	7	3	9		2	5
5	イ	57	19	19	1	1	20	17	42	162
	ロ	79	9	3			3	20		
6	イ	13	4	4			4	2	1	3
	ロ	6	6	6			6		1	2
	ハ	20	11	11	1	1	12		4	11
	ニ									
7		19	8	8			8	3	2	5
8		4	1	1	1	1	2			
9	イ									
	ロ	2			1	1	1			
10										
11		36	4	4			4	2		
12	イ	90							1	3
	ロ									
13	イ	39								
	ロ									
14		146						1		
15		201	12	9	3	3	12	1	1	2
16	イ	67	16	15	8	6	21	2	5	13
	ロ	128	2	1			1	6		
16の2										
16の3										
17		4	1	1			1		4	15
18		4								
19										
20										
合計		987	115	100	47	38	138	57	67	233

備考 1 延べ面積50㎡以上の防火対象物を対象とする。
2 中高層建築物とは、4階以上又は15m以上の建築物を対象とする。

平成28年度月別建築確認同意事務取扱状況

項	月別取扱件数												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3	ロ									1			1
4									2			1	3
5	ロ		1										1
6	イ			1				1	1				3
6	ロ								1				1
6	ハ	1											1
12	イ							1					1
15								1	1				2
その他		1	3	3	1	2	1			2			13
合計		2	4	4	1	2	1	3	2	3	3	0	26

消防用設備等設置状況

平成29年3月31日

種類	消 火 設 備					警 報 設 備				避難設備		消防用水	消火活動上必要な施設		
	消火器	屋内消火栓設備	スプリンクラー設備	水噴霧消火設備等	屋外消火栓設備	動力消防ポンプ	自動火災報知設備	漏電火災警報器	非常警報設備	消防機関へ通報する火災報知設備	避難器具		誘導灯	連結送水管	連結散水設備
設置数	423	37	17	7	1	2	173	83	76	46	44	232	2	12	0

各種届受付件数及び検査済証交付件数

平成28年度中

種類 / 項	消 火 設 備					警 報 設 備				避難設備		消防用水	消火活動上必要な施設		合計
	消火器	屋内消火栓設備	スプリンクラー設備	水噴霧消火設備等	屋外消火栓設備	動力消防ポンプ	自動火災報知設備	漏電火災警報器	非常警報設備	消防機関へ通報する火災報知設備	避難器具		誘導灯	連結送水管	
設計・着工・設置届 受付件数	1	口					3					1			4
	3	口	1				1					1			3
	4		3						4			4			11
	5	イ					2								2
		口	1												1
	6	イ	1	2						2		1			6
		口		1			1			1		2			5
		八	4				5		2	2		3			16
	7		1	2			6								9
	12	イ					2								2
	15						2								2
	16	イ	1				4					2			7
合計		12	2	3	0	0	26	0	6	5	0	14	0	0	68

検査済証交付件数	1	口					2					1			3
	3	口	1				1					1			3
	4		2						2			2			6
	5	イ					1								1
		口	1												1
	6	イ	1							1		1			3
		口										1			1
		八	3				2		1	1		2			9
	7		1	1			3								5
	12	イ					1								1
	15						1								1
	16	イ	1				2			1		1			5
合計		10	1	0	0	0	13	0	3	3	0	9	0	0	39

(危険物関係)

対象物別貯蔵・取扱状況

内容現在 平成29年3月31日

区分 対象物	給油 取扱所	船舶給油 取扱所	自家用給油 取扱所	一般取扱所	屋内貯蔵所	屋外貯蔵所	屋外タンク 貯蔵所	屋内タンク 貯蔵所	地下タンク 貯蔵所	簡易タンク 貯蔵所	移動タンク 貯蔵所	合計
ガソリンスタンド	10				1						10	21
工場・作業場				1	1		2	1			4	9
官公庁									1			1
病院・福祉施設									2			2
農業協同組合関係												
漁業協同組合関係		2		1			2					5
旅館・ホテル				1			1	3	8			13
運輸業関係			4		1							5
その他			1	5	2		5	2	13		1	29
合計	10	2	5	8	5		10	6	24		15	85

製造所等倍数状況

内容現在 平成29年3月31日

区分 対象物	給油 取扱所	船舶給油 取扱所	自家用給油 取扱所	一般取扱所	屋内貯蔵所	屋外貯蔵所	屋外タンク 貯蔵所	屋内タンク 貯蔵所	地下タンク 貯蔵所	簡易タンク 貯蔵所	移動タンク 貯蔵所	合計
5倍以下		1		4	3		2	4	11		14	39
5倍を超え10倍以下			1	1	1		1	2	7			13
10倍 " 50倍 "	2	1	4	2	1		3		6			19
50倍 " 100倍 "	1										1	2
100倍 " 150倍 "	1											1
150倍 " 200倍 "	3						1					4
200倍 " 500倍 "	3			1			3					7
500倍 " 1000倍 "												
1,000倍を超えるもの												
合計	10	2	5	8	5		10	6	24		15	85

平成28年度における防火対象物定期点検報告制度の状況

平成29年3月31日

	対象数	報告数	特例認定数
1項口	5	3	1
3項口	2	0	0
5項イ	10	1	9
6項イ	1	1	0
16項イ	1	0	0
計	19	5	10

危険物関係申請及び届出受理状況

平成28年度

	件数
危険物設置許可申請	1
危険物変更許可申請	2
危険物完成検査申請	3
危険物仮使用承認申請	1
危険物仮貯蔵・仮取扱承認申請	1
危険物製造所等取扱者選任解任届	7
液化石油ガス等貯蔵取扱届	5
炉・かまど・ボイラー等設置届	9
危険物施設廃止届	4
発電・変電・蓄電池設備等設置届	7
少量危険物設置届出書	2
合計	42

5年間の危険物施設数と平成28年度の立入検査実施状況

区 分	年度別施設数					立入検査	
	24	25	26	27	28	延べ件数	延べ人員
給油取扱所	11	11	11	11	10	10	30
船舶給油取扱所	2	2	2	2	2	2	6
自家用給油取扱所	5	5	5	5	5	0	0
一般取扱所	7	7	8	8	8	3	9
屋内貯蔵所	5	5	5	5	5	3	12
屋外貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0
屋外タケ貯蔵所	8	8	9	10	10	7	21
屋内タケ貯蔵所	6	6	6	6	6	3	9
地下タケ貯蔵所	25	24	24	24	24	8	24
簡易タケ貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0
移動タケ貯蔵所	29	22	21	20	15	14	42
合 計	98	90	91	91	85	50	153

消防法第9条の3及び火災予防条例 関係届出施設と立入検査実施状況

平成28年度

施設の区分	届出施設数	立入検査実施状況	
		延べ件数	延べ人員
圧縮アセチレンガス等	83	12	36
炉	13	4	12
厨房設備	3	2	6
ボイラー設備	169	56	168
サウナ設備	5	2	6
変電設備	120	26	78
発電設備	65	16	48
蓄電設備	53	9	27
ネオン管灯設備	1	0	0
少量危険物施設	128	37	111
指定可燃物	4	0	0
計	644	164	492

備考：届出施設数は平成29年3月31日現在

独居老人訪問指導

平成28年版消防白書によると、住宅火災における死者（放火自殺者等以外）のうち、65歳以上の高齢者が全体の66.8%となっており、今後の高齢社会の進展とともに、住宅火災による死者が急増することが懸念されている。

那智勝浦町消防本部、消防団では、高齢者の一人暮らしを対象に防火点検など住宅訪問指導を行っている。

この独居老人訪問指導は、昭和62年から実施している。

年度	対象数	訪問数	年度	対象数	訪問数
平成19年度	1,639	827	平成24年度	1,735	782
平成20年度	1,735	856	平成25年度	1,698	849
平成21年度	1,816	879	平成26年度	1,667	896
平成22年度	1,791	926	平成27年度	1,627	922
平成23年度	1,745	865	平成28年度	1,593	835

昭和62年度～平成21年度までは、65歳以上が対象。平成22年度からは、毎年年齢を1歳ずつ引上げ、平成31年度以後は、75歳以上を対象とする。平成28年度は、72歳以上が対象であった。

(火薬類取締法関係)
火薬類火薬庫・販売店状況

平成28年度

	件数
火薬庫	1
紙雷管販売店	2
合 計	3

火薬類関係申請及び届出受理状況

平成28年度

	件数
保安検査申請	1
火薬類消費許可申請	1
火薬類譲渡許可申請	1
火薬類譲受・消費許可申請	0
火薬類廃棄許可申請	5
合 計	8

(高圧ガス保安法関係)
高圧ガス製造所・販売所・貯蔵所状況

平成28年度

区分	一般則		液石則		コンビ則		冷凍則		合計
	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	
事業所等									
高圧ガス製造事業所		1	3				3	7	14
高圧ガス貯蔵所		2							2
高圧ガス販売事業所			2				10		12
合 計	3		5				20		28

高圧ガス関係申請及び届出受理状況

平成28年度

	件数
指定保安検査機関保安検査受検届書	1
保安検査結果報告書	1
保安検査申請書	1
合 計	3

(液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係)
液化石油ガス販売事業所状況

平成28年度

	店舗数
液化石油ガス販売事業所	11

警 防 編

警防業務の概要

1 警防業務について

警防業務は、火災出動や救急救助出動はもとより、多種多様な災害から住民の生命、身体及び財産を守るため活動を行うことを任務としている。

このため、職員は、日々の訓練はもとより高度な技術を修得し、あらゆる災害に対処している。

平成28年度の火災出動等の主な出動状況は次表のとおりで、救急出場件数が全体の約98.5%を占めている。

平成28年度における主な警防活動概要		
区分	件数	比較
火災出動件数	7件	前年度比2件減
救急出場件数	991件	前年度比20件減
救助出動件数	8件	前年度比6件増

2 救急救命士と高規格救急自動車

救命率の向上を図るため、平成11年4月から救急救命士と高規格救急自動車が一体となった高度化救急業務を実施している。

救急救命士は、医師の具体的な指示を受けて心肺機能停止状態の傷病者に器具を用いた気道確保、乳酸リンゲル液を使用しての静脈路確保及びアドレナリン投与等高度な救命処置を行うことができる。平成26年9月からは拡大2行為として、いずれも心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液及び血糖測定とブドウ糖溶液投与の運用を開始している。このため、高規格救急自動車には、高度な救命処置資器材などが装備されている。

また、救急救命士の資質、技量の維持、向上を図るため、年24時間の病院実習や救急症例検討会等の救急救命士再教育を行っている。

なお、平成28年度末現在で、11人の救急救命士が救急業務に従事している。

3 携帯電話等からの119番通報

和歌山県内の携帯電話からの119番通報が、平成18年3月31日から災害現場を管轄する消防本部が直接受信する方式に替わった。これにより、転送等による通報の時間ロスが解消され、一刻を争う消防車・救急車の現場到着が早まり、被害の軽減や救命率の向上につながることを期待されている。

なお、当消防本部における平成28年度の携帯電話等からの119番通報受信件数（他消防本部への転送・伝送を除く。）は331件で、前年度に比べて86件の増となっている。



4 消防訓練等の指導と防火講習会

消防署では、学校や旅館・ホテル等に対して初期消火訓練や避難訓練の指導のほか、地域住民に対して天ぷら油火災の消火実験や消火器具の取扱い方法など火災を未然に防止するための防火講習会、各小中学校を対象に土砂災害、地震、津波についての防災講習会、いざという時のための救急法の講習会を開催している。

平成28年度の取扱件数は、次表のとおりです。

区分	対象施設・講習区分	取扱件数	従事職員数	参加人数	
訓練指導	保育所、小・中学校	11 件	33 名	893 名	
	旅館・ホテル等	18 件	98 名	233 名	
	病院、福祉施設等	21 件	86 名	607 名	
	その他	8 件	27 名	198 名	
	計	58 件	244 名	1,931 名	
講習会	防火・防災講習会	15 件	48 名	940 名	
	救命講習	上級救命講習	1 1 件	6 名	9 名
		普通救命講習	2 9 件	20 名	87 名
		基礎救命講習	3 32 件	86 名	775 名
	計	57 件	160 名	1,811 名	
合計		115 件	404 名	3,742 名	

- 1 上級救命講習とは、講習時間が8時間以上で、修了証が交付されるものをいう。
- 2 普通救命講習とは、講習時間が3時間以上で、修了証が交付されるものをいう。
- 3 基礎救命講習とは、普通救命講習に至らない講習をいう。

5 消防庁舎等の見学

平成28年度に消防庁舎、消防車両の見学に訪れた団体等は、次表のとおり
また、平成11年度からは、中学生、高校生による職場体験学習も行われています。

区分	団体	件数	人員	備考
消防庁舎見学	保育所	4 件	64 名	下里保育所、南大居保育所 宇久井保育所、大野・井関 保育所
	小学校	5 件	141 名	勝浦小学校、下里小学校 市野々小学校、宇久井小学 校
職場体験学習	中学校	3 件	8 名	下里中学校、那智中学校 宇久井中学校
	高等学校	1 件	1 名	新翔高等学校
合計		13 件	214 名	

消防用資器材保有状況（警防）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	65mmホース×20m	149	29	クアドラフォグノズル	4
2	50mmホース×20m	30	30	滑車	6
3	65mmホース×10m	4	31	ハンドマイク	8
4	65mm管そう	7	32	草刈り機	1
5	プロジェクトガン	0	33	ビニールシート	6
6	フォグガン	2	34	粉末消火器	4
7	CAFS切替用ノズル	4		10型×4本	
8	放水砲（3,000ℓ/分）	1		20型×1本	
9	JETX-2高発泡器	1	35	水消火器訓練用	10
10	東消式簡易発泡器	2	36	泡消火薬剤	3,280ℓ
11	フォームショットガン	2		タンパク系薬剤（460ℓ）	
12	ジェットシューター	13		フッ素タンパク系薬剤（600ℓ）	
13	組立水槽（1,000ℓ型）	1		界面活性剤（420ℓ）	
14	山林火災消火用具セット	0		水成膜泡（1,800ℓ）	
15	消火栓圧力計	2	37	ラインプロポーショナー	5
16	鉄線カッター	5		LP-150×1	
17	災害現場用指揮機	1		LP-500×4	
18	警戒ロープ	1	38	泡消火薬剤補給用ポンプ	2
19	耐熱服	4		電動×1	
20	強力ライト	20		手動×1	
21	防爆型携帯用投光器	4	39	泡管そう	6
22	折りたたみ梯子	3		1000型×1	
23	万能オノ	4		400型×3	
24	携帯発電機	5	40	化学防護服	3
25	投光器	4	41	塩素系中和散布用人力防除器	1
26	リニアノズル	7	42	ディスクストレーナー	2
27	デジタルカメラ	2	43	低水位ストレーナー	1
28	エアーテント一式	2			

消防用資器材保有状況（救助）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	カギ付梯子	2	25	防塵メガネ	6
2	三連梯子	1	26	エアクッション式救助マット	1
3	救助用縛帯	3	27	山岳救助器具 一式	1
4	救助用担架	1	28	削岩機	1
5	油圧スプレッター	1	29	車両応急用具	4
6	油圧カッター	1	30	ドリル	2
7	チルホール	3	31	携帯用コンクリート破壊器具	1
8	エンジンカッター	2	32	救命索発射銃	1
9	エアーソー	2	33	送排風機 一式	2
10	可燃性ガス検知器	3	34	溶断機	1
11	酸素濃度検知器	1	35	携帯警報器	11
12	空気呼吸器	20	36	防塵防毒マスク	5
13	軽量空気ボンベ(15MPa)	25	37	シャックル	7
14	救命ボート 一式(船外機を含む)	1	38	簡易画像探索機	1
15	検索棒	1	39	夜光チョッキ	5
16	ワイヤーロープ	7	40	肘あて	5
17	耐電手袋	24	41	膝あて	5
18	耐電長靴	3	42	スコップ	3
19	安全帯	15	43	なた	1
20	スリング	9	44	鋸	1
21	サーバイバースリング	2	45	当て木 一式	1
22	チェーンソー	2	46	レスキューストレッチャー	1
23	救助リュック	3	47	マット式空気ジャッキ 一式	1
24	レスキューシザー	1	48	バスケットストレッチャー	2

消防用資器材保有状況（水難器具）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	レギュレーター	11	17	ポンベ	11
2	BCD	6	18	水中ナイフ	12
3	リスト水深計	6	19	水中ライト	10
4	リストコンパス	8	20	フラッシャー	6
5	水中時計	8	21	浮標一式	2
6	マスク	9	22	救命浮環	3
7	スノーケル	11	23	標識灯	1
8	フィン	9	24	ロープ（潜降索）	3
9	ドライスーツ	5	25	＂（基導索）	4
10	ウェットスーツ	15	26	＂（細索）	5
11	フード	8	27	フローティングロープ	3
12	フードベスト	16	28	カラビナ	6
13	グローブ	17	29	救命胴衣	10
14	ブーツ	12	30	ヘルメット	7
15	ウエイトベルト	9	31	レスキューチューブ	1
16	ウエイト	48			

消防用資器材保有状況（救急）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	デジタル携帯電話	3	35	スクープハーネス	4
2	タブレット端末	1	36	固定ベルト	8
3	Bluetoothヘッドセット	2	37	バックボード一式	5
4	除細動器	3	38	患者固定ベルト（バックボード用）	6
5	AED	3	39	布担架	3
6	患者監視装置	1	40	減圧式固定具（マジックギプス）	2
7	携帯用ECGモニター	2	41	減圧式固定具（バキュームマットレス）	1
8	携帯用パルスオキシメーター	3	42	ショートボード一式	2
9	携帯用CO2モニター	2	43	レスキューセット	2
10	携帯用血糖測定器	4	44	救急ヘルメット	6
11	CPRメーター	2	45	在宅医療処置セット	3
12	加湿流量計付き酸素吸入装置	2	46	聴診器	5
13	インハレータ	2	47	体温計	12
14	携帯用酸素吸入装置	2	48	検眼ライト	9
15	自動式人工呼吸器	3	49	携行用ハサミ	8
16	電動式吸引器	3	50	レスキューシザー	4
17	携帯用電動式吸引器	1	51	救急カバン	5
18	手動式人工呼吸器具（成人用）	5	52	コリークリップ	2
19	手動式人工呼吸器具（小児用）	3	53	膿盆	6
20	喉頭鏡	7	54	洗眼器	2
21	マギル鉗子	10	55	リングカッター	2
22	輸液ポンプ	2	56	特定小電力トランシーバー	6
23	血圧計（ウォール型）	2	57	耐刃防護衣	6
24	血圧計（アネロイド型）	3	58	救急隊ベスト	6
25	血圧計（自動式）	2	59	耐電手袋	6
26	ショックパンツ	1	60	自動手指消毒器	2
27	心肺蘇生用背板	2	61	毛布	14
28	自動式心マッサージ器	1	62	訓練用人形（成人モデル）	8
29	防振ベッド	2	63	訓練用人形（小児モデル）	5
30	レスキューシート	4	64	訓練用人形（新生児モデル）	7
31	雨おおい	2	65	静脈注射訓練用モデル	1
32	患者用レインカバー	3	66	気道管理トレーナー	1
33	メインストレッチャー	2	67	AEDトレーナー	6
34	スクープストレッチャー	4	68	ヘッドライト	6

消防用資器材保有状況（予防）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	ピトーゲージ	1	8	訓練用発煙器	1
2	危険物性状判定試験器 一式	1	9	クリノメーター	1
3	擬似電流試験器	1	10	ビデオカメラ	1
4	加熱試験器	2	11	デジタルカメラ	2
5	騒音計	1	12	防災絨毯判定器具 一式	1
6	ガス検知器	1	13	マイクロスコープ	1
7	炭化深度計	1			

消防用資器材保有状況（庶務）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	式典用放送設備 一式	1	3	式台	1
2	テント 一式	2	4	携帯型風向、風速計	1

消防用資器材保有状況（施設）

平成29年4月1日

番号	機械器具名	数量	番号	機械器具名	数量
1	バッテリー充電器	1	15	テスター	2
2	バッテリーテスター	1	16	工具 一式	1
3	エアゲージ	2	17	脚立（アルミ製）	2
4	ディスクグラインダー 一式	1	18	コンプレッサー	1
5	電気ドリル 一式	1	19	ガレージジャッキ	1
6	比重計	1	20	高圧空気圧縮機 （空気ボンベ充てん用）	1
7	電気丸鋸	1	21	双眼鏡	1
8	ジグソー	1	22	静圧計	1
9	インパクトドライバー	1	23	通過形電力計	1
10	真空計	1	24	終端形高周波電力計	1
11	圧力計	1	25	標準信号発信器	1
12	デジタルカメラ	1	26	可搬用八木アンテナ 一式	1
13	検電器	1	27	周波数カウンター	1
14	検電器チェッカー	1			

携帯電話等からの119番通報受信状況

平成28年度

月	那智勝浦町消防本部への受信状況								
	受信件数 計	うち県内他消防本部 等からの転送件数	通報内容種別等						他消防本部等へ の転送・伝送
			火 災	救 急	救 助	調査、 危害排除、 その他	病院紹介	その他 (誤戯報等)	
4月	22			19		1	1	1	
5月	25	1		22	2	1			
6月	19	1		17				2	
7月	20	1		17		1		2	
8月	30	1		23		2		5	
9月	35	2		29		1	1	4	
10月	27	2		22		1		3	1
11月	18	1		12	1		2	2	1
12月	40			35				5	
1月	48		1	44	1			2	
2月	17			13			1	3	
3月	32	2		27		1		4	
計	333	11	1	280	4	8	5	33	2

消防相互応援協定

平成29年4月1日

名 称	締結年月日	協定市町村名等	応 援 内 容
那智勝浦町・太地町消防相互応援協定	S61.3.31	那智勝浦町・太地町	火災・水害・救急その他の災害
和歌山県防災ヘリコプター応援協定	H8.2.22	和歌山県下の市町村及び消防の一部事務組合	消防組織法第1条に規定する水火災又は地震等の災害
和歌山県下消防広域相互応援協定	H8.3.1	和歌山県下の市町村及び消防の一部事務組合	自然災害・火災・大規模又は特殊な事故・上記以外の災害で、応援を必要とする災害
紀南消防協定	H8.11.1 (H26.7.24) 改定	那智勝浦町・田辺市・白浜町・串本町・新宮市・熊野市	自然災害・火災・大規模又は特殊な事故・消防業務遂行上必要とする応援（調査及び検査を含む。）

その他の協定

平成29年4月1日

名 称	締結年月日	協定市町村名等	応 援 内 容
船舶消防等に関する業務協定	H10.8.1	串本海上保安署	「海上保安庁の機関と消防機関との業務協定の締結に関する覚書」に基づき、串本海上保安署と本町消防本部が船舶消火活動に関して協定するとともに救急救助活動についても協力体制を確立し、相互の機能を活用し海上における防災活動の万全を期する。
高野小森川トンネルの非常通報装置等の通報等に関する協定	H17.4.1	古座川町・串本町	林道小匠小森川線の高野小森川トンネル内の非常電話及び非常通報装置の通報先並びに出動体制の構築
医師等による救急活動の実施に関する協定	H29.3.31	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター	救急現場から傷病者を医療機関等へ搬送するまでの間において、傷病者が医師による医療行為を必要とする状況となった場合、医師派遣用自動車（ドクターカー）により救急現場に赴き活動する。

消防水利

簡易防火水槽

平成29年4月1日



内容量：6t
材 質：F.R.P
現有数：52基

設置年度	設置数	設置年度	設置数
昭和 61年度	(試作)1基	平成 5年度	5基
昭和 62年度	5基	平成 6年度	5基
昭和 63年度	5基	平成 7年度	6基(内20t1基)
平成 元年度	5基	平成 8年度	3基
平成 2年度	5基	平成 9年度	3基
平成 3年度	5基	平成 10年度	2基
平成 4年度	5基	平成 11年度	0基

本町において郊外や山間部の災害対応では、遠距離水利の使用を余儀なくされるため、消防力の基準内防火水槽の設置を進めるとともに、この簡易防火水槽を広範囲の無水利地区に設置することにより、火災防ぎょにおける初期消火の重要性から、後着隊の充分期待できる地域には1基(6t)、無水利地区には連結2基(12t)を原則に設置している。

この防火水槽の特徴としては、製作費用が安価で、連結が可能であり、高位置に設置すれば地区住民による初期消火が可能とともに、防火意識の高揚につながることを期待している。

なお、平成10年度をもって事業を終了した。

主な消防水利の設置状況

地区	水利合計	消火栓						貯水槽					簡易水槽	指定水利				ホース収納の有無	
		地下式	地上式	150ミリ未満	150ミリ	150ミリ超	40t未満	40t	40t超	耐震性有	プール	池		河川	その他				
勝 浦	80	75	74	1	40	35		4		4				1					53
那 智	282	245	238	7	160	36	49	16	1	14	1	1	7	1	2	2	9		95
宇久井	140	113	107	6	106	7		14	1	13		1	12	1					45
色 川	23												22				1		
下 里	109	99	94	5	78	21		7	1	6		2	2			1			78
太 田	84	68	67	1	46	9	13	6	1	5			9			1			9
計	718	600	580	20	430	108	62	47	4	42	1	4	52	3	2	4	10		280

簡易防火水槽は、町独自の設置

指定水利

- 1 小学校プール 勝浦・市野々・宇久井各小学校 内容量は各々約500t
- 2 池 湯川地内橋の川奥・那智高原公園内
- 3 河川 八尺鏡野、上長井、二河地内2か所

那智の歴史と文化を
火災から守る

平成12年度完成

那智山地区

自然水貯水型 消防水利施設

施設の概要

工期	平成9年度～平成12年度	
施設		
送水管布設	口径 100mm～150mm 延長 696m 管種 鋳鉄管及び高性能ポリエチレン管	
消火管布設	口径 75mm～150mm 延長 757m 管種 鋳鉄管及び高性能ポリエチレン管	
防火水槽	200t級 1基 40t級 2基	
消火栓	7基	
事業費	79,570千円	
財源内訳	起 債	74,700千円
	一般財源	4,870千円

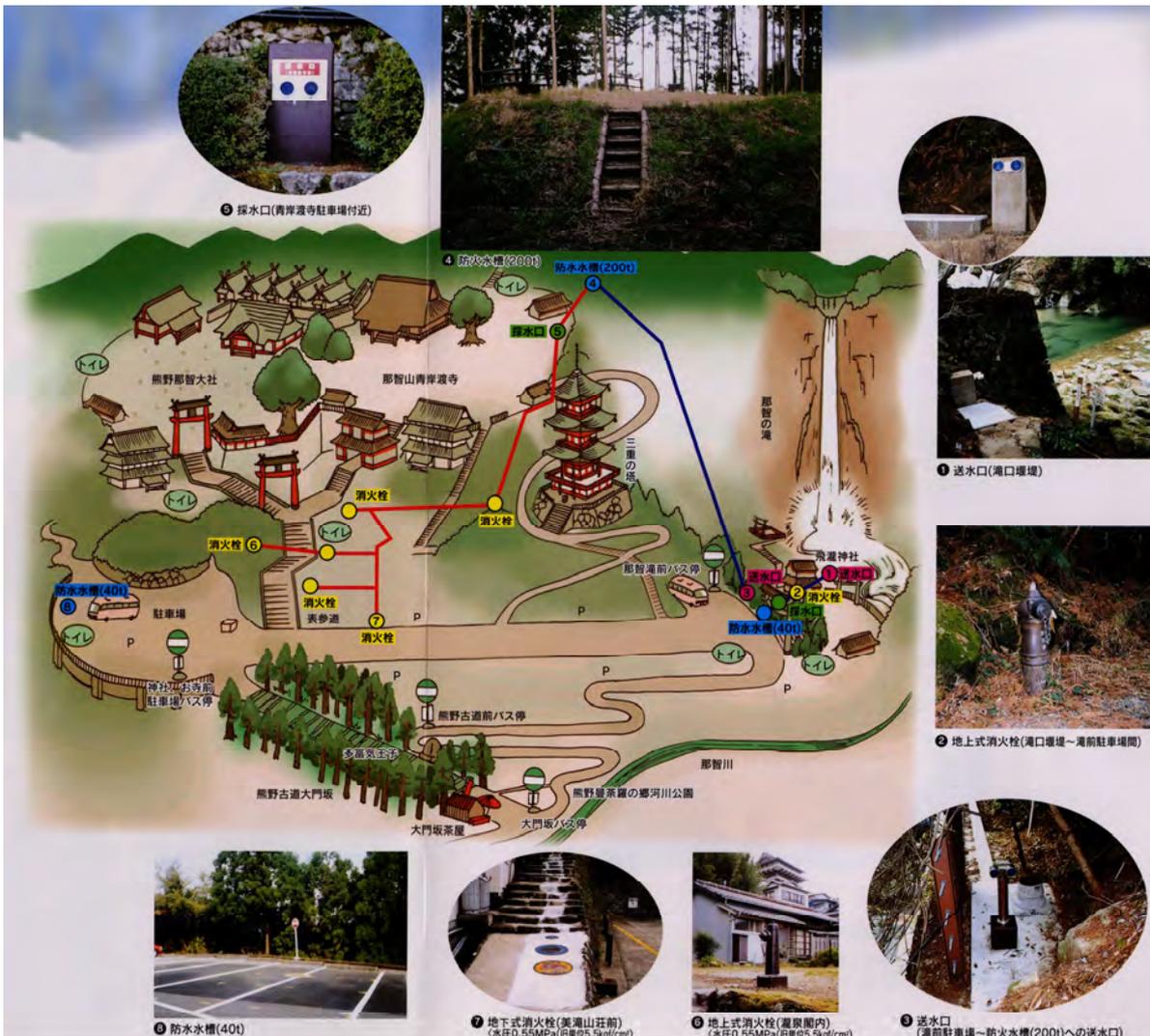
那智山地区自然水貯水型消防水利施設について

那智山地区は、高低差約200メートルの急傾斜地に位置し、重要文化財である神社や寺院、そして名瀑「那智の滝」を軸に開けた観光地で、参道に面して土産物店や飲食店等が立ち並んでいるが、上水道が引かれていない無水利地区であり、火災に際して消防水利の確保が永年の懸案事項であった。

そこで、高位置に「那智の滝」の自然水を水源とする200トン級防火水槽1基、低位置に40トン級防火水槽2基を配置し、この間を消火栓を取り付けた消火管で接続することによって地区全体の消防水利をカバーしている。これにより、消火栓による有圧放水及び防火水槽に部署した消防ポンプ自動車等による放水が可能となった。

なお、この事業は、平成9年度から平成12年度までの4か年にわたり、消防庁の「防災まちづくり事業」として採択を得て、実施したものである。

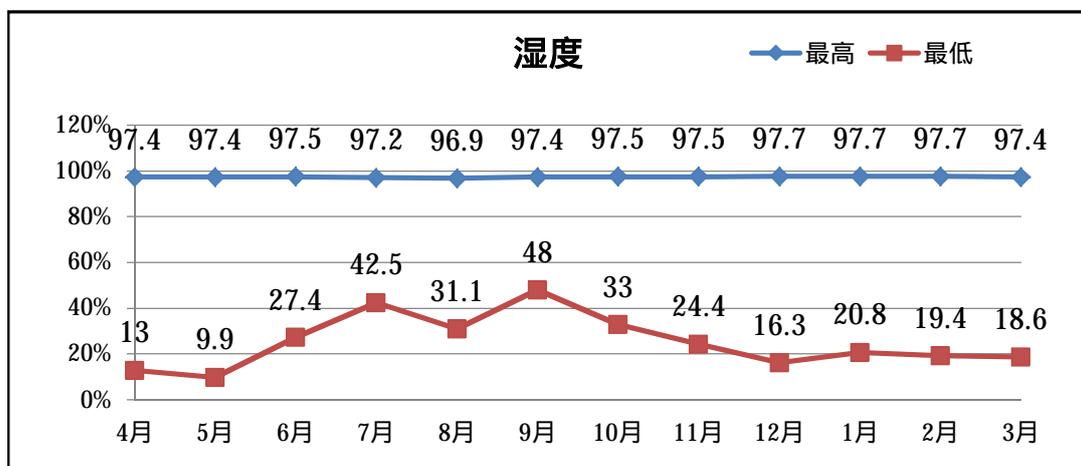
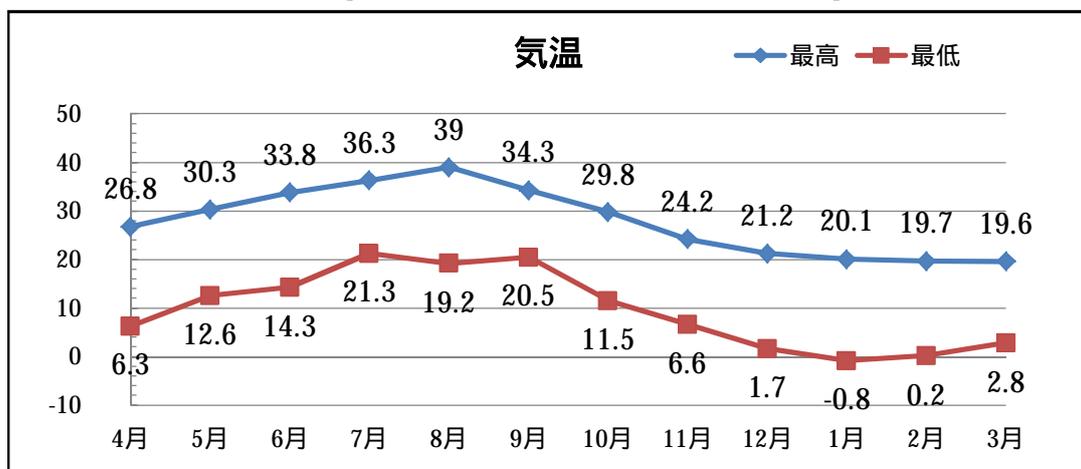
那智山地区自然水貯水型 消防水利施設系統図



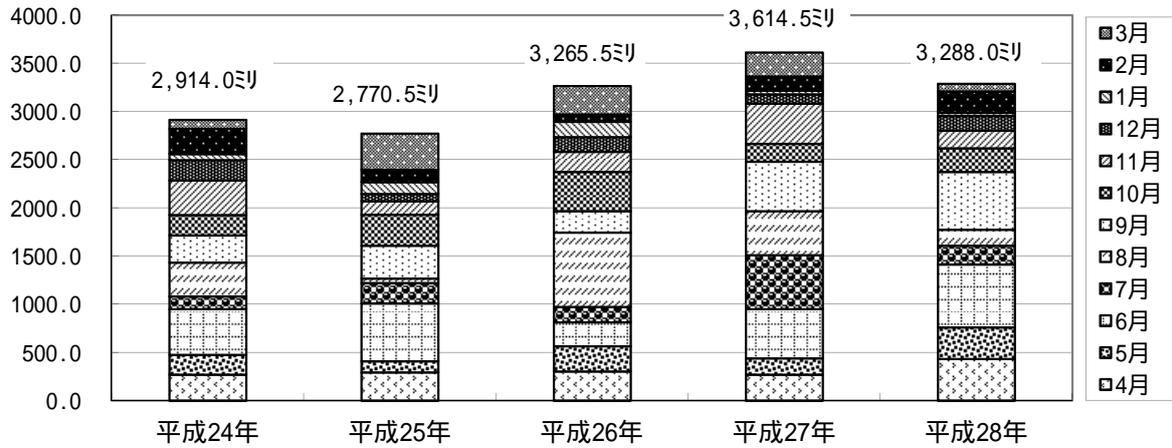
気象警報・注意報・情報

警報			注意報			情報		
大雨	8	回	乾燥	26	回	台風	40	回
洪水	7	回	大雨	36	回	大雨	1	回
暴風	1	回	洪水	34	回	火災気象通報	86	回
津波	0	回	強風	78	回	潮位	0	回
大津波	0	回	波浪	75	回	低気圧	0	回
水防	0	回	雷	92	回	地震	22	回
高潮	0	回	高潮	18	回	各地の震度	2	回
波浪	1	回	濃霧	0	回	津波	1	回
			霜	26	回	土砂警戒	0	回
			津波	0	回	竜巻	30	回
			風雪	4	回	水防配備態勢	4	回
			突風	0	回	落雷	0	回
			雹	0	回	大雪	4	回
			大雪	0	回	河川氾濫	0	回
			低温	0	回	濃霧	0	回
						突風	0	回
						降雹	0	回
						その他	132	回

平成28年度気温・湿度グラフ (測定場所 消防庁舎屋上)



過去5年間の月別降雨量（測定場所 消防庁舎屋上）

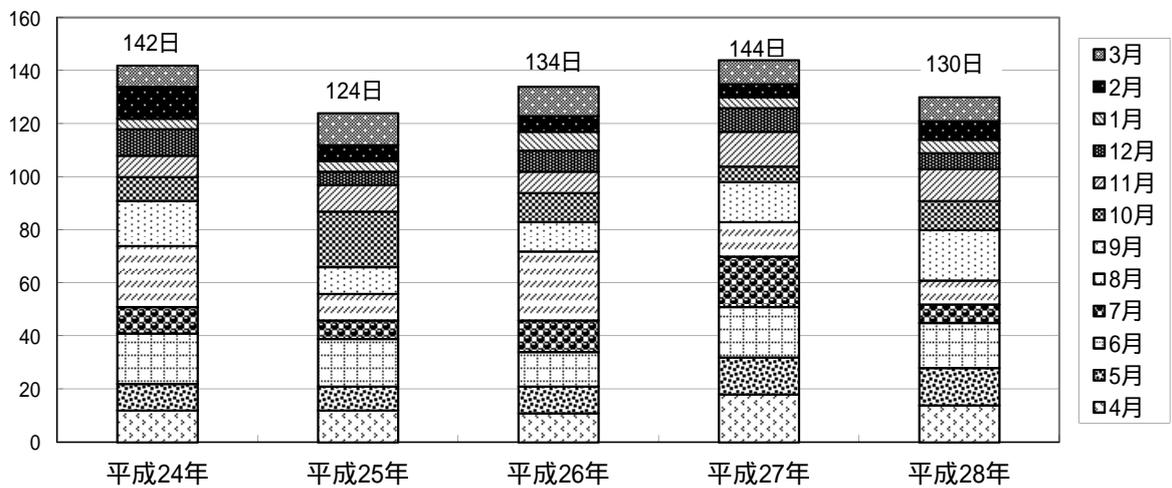


(単位:ミリ)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年	270.5	206.5	473.5	130.5	351.5	282.5	213.0	358.0	210.5	61.5	262.0	94.0	2,914.0
平成25年	293.5	117.0	600.0	212.0	43.5	343.0	321.0	138.0	78.5	123.0	129.0	372.0	2,770.5
平成26年	304.5	259.5	250.5	159.0	772.5	220.5	406.0	211.5	150.0	160.0	75.0	296.5	3,265.5
平成27年	270.0	170.5	509.5	559.0	459.0	510.5	186.5	417.0	98.0	35.5	149.5	249.5	3,614.5
平成28年	431.0	330.0	653.5	195.5	165.0	598.5	246.0	181.0	154.0	32.5	223.0	78.0	3,288.0

* 平成28年1月21日から2月5日までの間、新指令室工事に伴い降雨量欠測箇所あり

過去5年間の月別降雨日数



(単位:日)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年	12	10	19	10	23	17	9	8	10	4	12	8	142
平成25年	12	9	18	7	10	10	21	10	5	4	6	12	124
平成26年	11	10	13	12	26	11	11	8	8	7	6	11	134
平成27年	18	14	19	19	13	15	6	13	9	4	5	9	144
平成28年	14	14	17	7	9	19	11	12	6	5	7	9	130

* 平成28年1月21日から2月5日までの間、新指令室工事に伴う降雨量欠測のため降雨日数未計上

救急・救助編

救急救助業務の概要

1 救急業務の実施状況

本町の平成28年度の救急出場件数は991件で、前年度と比較して20件減少している。救急出場件数は、ここ数年は1,000件前後を推移している。

事故種別による昨年比の増減は、水難が3件、一般負傷が5件、転院搬送が13件、医師搬送が1件、その他2件が増加し、火災が1件、労働災害が4件、運動競技が1件、加害が1件、急病が37件の減少となっている。

次に、本町において平成28年度に救急自動車によって搬送された人員は、933人（対前年度40人減）で、その内訳は、急病が568人（搬送人員全体の60.9%）と半数以上を占め、次いで、一般負傷が155人（同16.6%）、転院搬送が140人（同15%）、交通事故が50人（同5.4%）、労働災害が6人（0.6%）及び自損行為が5人（同0.5%）の順となっている。

さらに、本町の1日当たりの平均救急搬送人員は約2.6人で、町民の17人に1人（前年度17人に1人）が救急隊によって搬送されたことになる。

これに対し、平成28年版消防白書によると、全国では平成27年中に国民の23人に1人（前年24人に1人）が救急隊によって搬送されており、住民に対する救急搬送率は、本町の方が高い数値を示している。

一方、搬送された人員の傷病程度は、軽症が44%と多く、次いで中等症が39%、重症が14%、死亡が3%の順となっている。

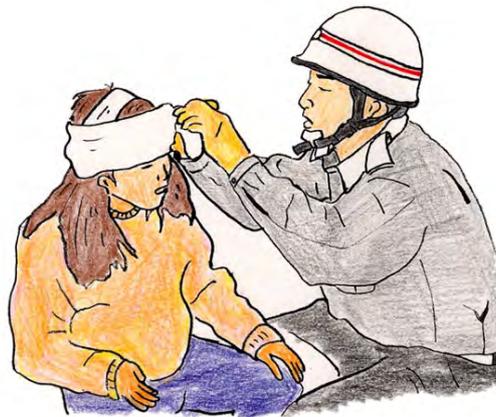
2 救助活動の実施状況

消防機関の行う人命の救助とは、火災・交通事故・水難事故・自然災害や機械による事故等から、人力や機械力等を用いて、その危険を排除し、安全な場所に救助する活動をいう。

平成28年度における本町の救助出動の実施状況は、救助出動件数8件（前年度2件）、救助人員6人（前年度2人）である。

次に、救助出動人員（救助出動したすべての消防職員をいう。）は、延べ80人（前年度17人）であり、救助出動1件当たり10人（前年度8.5人）が従事している。

また、事故種別ごとの出動人員は、その他3件で33人、交通事故3件で30人、水難救助2件で17人の順となっている。

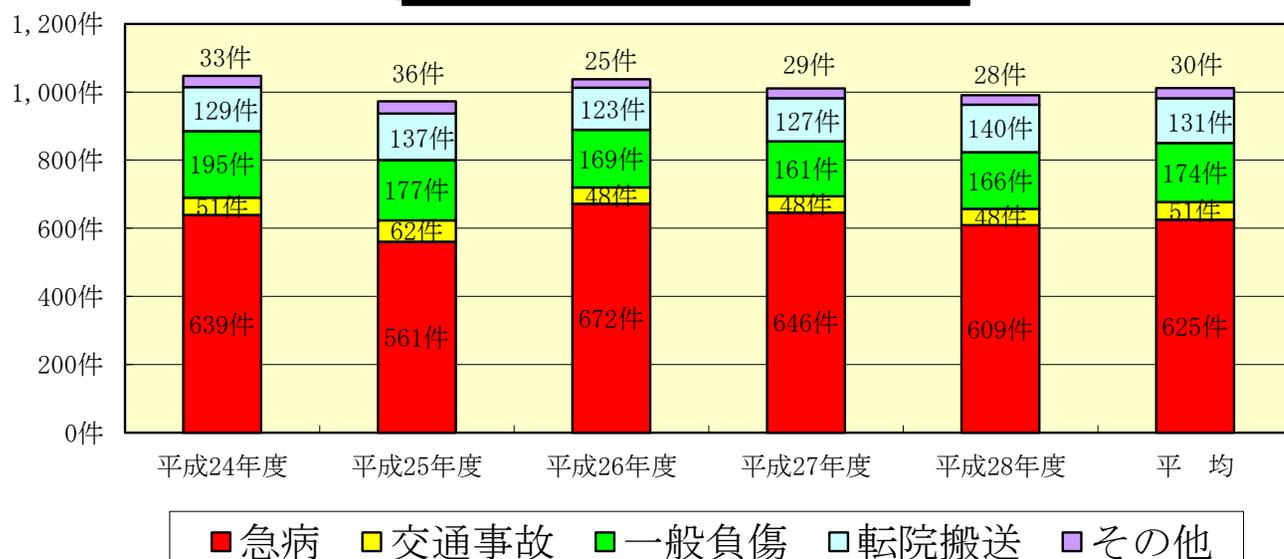


救急出場状況一覽表

平成28年4月1日～平成29年3月31日

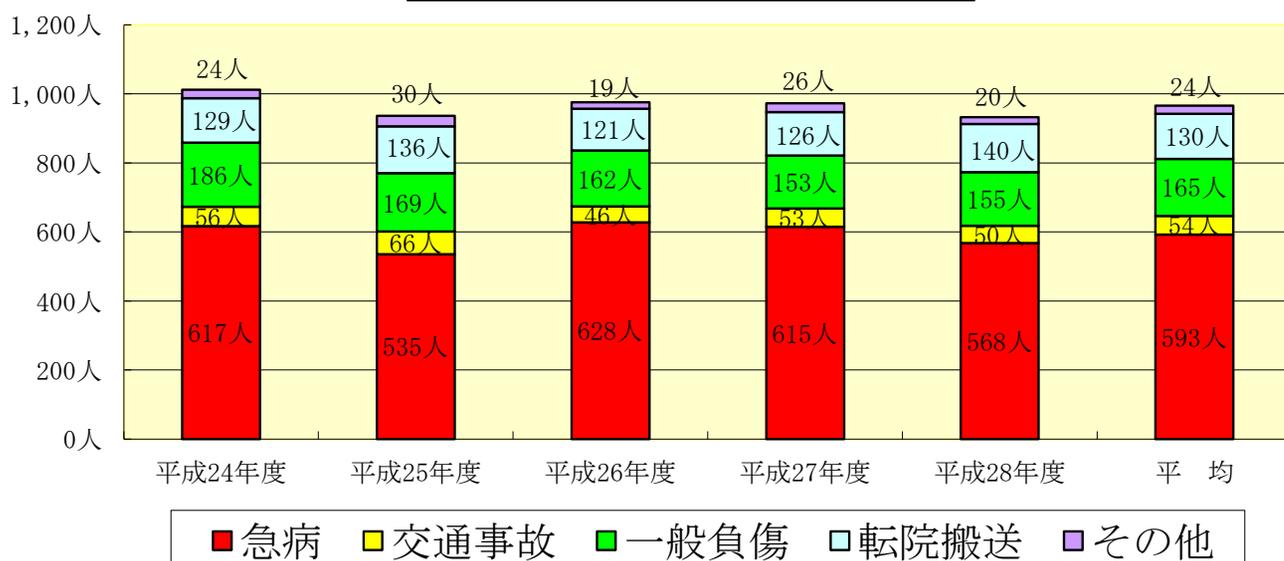
項目	事故種別 出場状況	火災		自然災害		水難		交通		労働災害		運動競技		一般負傷		加害		自損行為		急病		その他				計										
		件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員							
		1	2			3	3	48	50	6	6	4	4	166	155	2		8	5	609	568	140	140	1		3		991	933							
出場地域別	勝浦					2	2	3	3	3	3			36	32	1		1		111	99					1		158	139							
	那智							18	15	3	3	4	4	74	71	1		4	2	275	259	125	125	1		2		507	479							
	宇久井							9	12					26	25			2	2	92	86	4	4					133	129							
	色川							2	1					5	4					16	15							23	20							
	下里	1	2			1	1	13	16					17	15			1	1	81	76	11	11					125	122							
	太田							3	3					8	8					34	33							45	44							
	その他																																			
時間別	0～2							1	1					1	1					28	24	2	2					32	28							
	2～4					1	1							7	6					32	31							40	38							
	4～6					1	1							5	5	1				27	26	2	2					36	34							
	6～8							4	4	1	1			13	12			1	1	41	38					1		61	56							
	8～10					1	1	2	2	1	1			25	25			3	2	82	79	21	21					135	131							
	10～12							10	9			2	2	15	14			1		70	66	31	31			1		130	122							
	12～14	1	2					6	7	2	2			16	15			1	1	57	54	29	29	1		1		114	110							
	14～16							10	12	2	2	1	1	20	19	1		1	1	71	67	13	13					119	115							
	16～18							5	7					19	17			1		50	46	24	24					99	94							
	18～20							4	4			1	1	13	12					62	55	11	11					91	83							
	20～22							2	1					22	22					57	52	5	5					86	80							
22～24							4	3					10	7					32	30	2	2					48	42								
休日					2	2	12	10	2	2	1	1	77	70	2		1	1	291	269	30	30					418	385								
休日以外	1	2			1	1	36	40	4	4	3	3	89	85			7	4	318	299	110	110	1		3		573	548								
性別	男					3	30			5	3			70						315		81						508								
	女						20			1	1			85			5			253		59						425								
傷病程度	死	重	中	軽	死	重	中	軽	死	重	中	軽	死	重	中	軽	死	重	中	軽	死	重	中	軽				死	重	中	軽	他	計			
年齢区分	新生児																																			
	乳幼児							1	1											1	8							2	13		15					
	少年							1	1	7						3					4		1					1	1	18		20				
	成人			1		1	1	4	3	19			5		1		1	1	1	10	39	81	5	24	1			4	21	73	131	229				
	老人		1			1		1	5	7		1		1	17	45	54		1	2	25	51	170	178	36	69	4		28	105	292	244	669			
	計			2		2		1	6	10	34		1	5		1	3	2	19	50	84		2	3	26	61	210	271	41	93	6		32	127	368	406
不搬送	緊急無																			1													2			
	傷者無									1											1						1						4			
	拒否																				1												1			
	酩酊																				3												3			
	死亡									2											3												17			
	現場処置									1											10												37			
	誤虚報									1																							2			
	その他																										1						1			
計								5						12		2			3		41					1				3		67				
覚知別	119			加入電話	駆付け			自己覚知			その他			住所別			県外		県内・町外		町内		不定等		医療機関選定方法				選択		715					
	766			210			3			2			10			91		89		753				医療機関選定方法				依頼		218						

過去5年間の救急出場件数



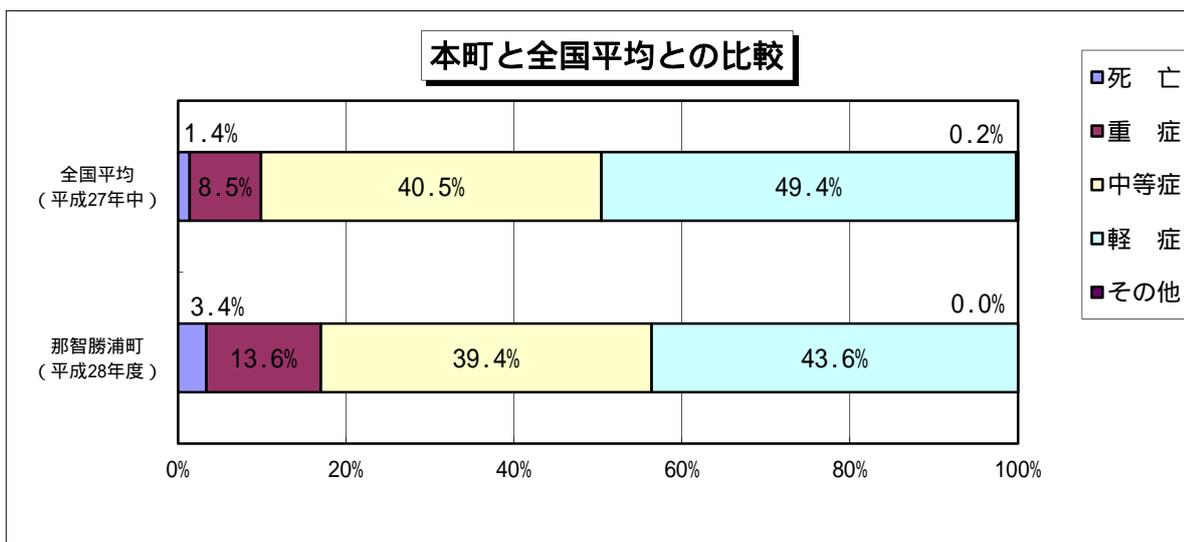
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
急病	639件 61%	561件 58%	672件 65%	646件 63%	609件 61%	625件 62%
交通事故	51件 5%	62件 6%	48件 5%	48件 5%	48件 5%	51件 5%
一般負傷	195件 19%	177件 18%	169件 16%	161件 16%	166件 17%	174件 17%
転院搬送	129件 12%	137件 14%	123件 12%	127件 13%	140件 14%	131件 13%
その他	33件 3%	36件 4%	25件 2%	29件 3%	28件 3%	30件 3%
計	1,047件 100%	973件 100%	1,037件 100%	1,011件 100%	991件 100%	1,012件 100%

過去5年間の救急搬送人員



	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
急病	617人 61%	535人 57%	628人 64%	615人 63%	568人 61%	593人 61%
交通事故	56人 6%	66人 7%	46人 5%	53人 5%	50人 5%	54人 6%
一般負傷	186人 18%	169人 18%	162人 17%	153人 16%	155人 17%	165人 17%
転院搬送	129人 13%	136人 15%	121人 12%	126人 13%	140人 15%	130人 13%
その他	24人 2%	30人 3%	19人 2%	26人 3%	20人 2%	24人 3%
計	1,012人 100%	936人 100%	976人 100%	973人 100%	933人 100%	966人 100%

傷病程度別搬送割合



区分	那智勝浦町 (平成28年度)	全国平均 (平成27年中)
死亡	3.4%	1.4%
重症	13.6%	8.5%
中等症	39.4%	40.5%
軽症	43.6%	49.4%
その他	0.0%	0.2%



事故種別医療機関別搬送状況

(単位：人)

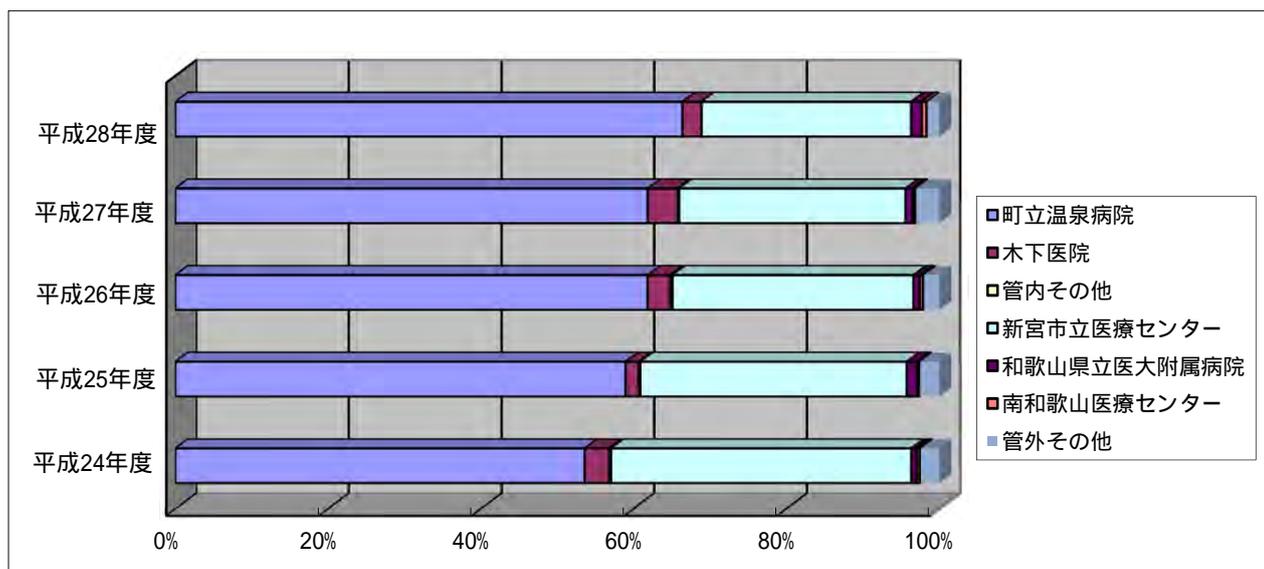
事故種別		急病		交通		一般負傷		その他		計		
			管外		管外		管外		管外		管外	
救急告示 医療機関	国立	1	1	1	1	1	1	4	4	7	7	
	公立	545	113	49	18	151	20	153	128	898	279	
	公的							1	1	1	1	
	私的	病院							1	1	1	1
		診療所										
	計	546	114	50	19	152	21	159	134	907	288	
その他の 医療機関	国立											
	公立											
	公的											
	私的	病院							1	1	1	1
		診療所	22	2			3				25	2
	計	22	2			3		1	1	26	3	
計	国立	1	1	1	1	1	1	4	4	7	7	
	公立	545	113	49	18	151	20	153	128	898	279	
	公的							1	1	1	1	
	私的	病院							2	2	2	2
		診療所	22	2			3				25	2
	計	568	116	50	19	155	21	160	135	933	291	
その他 場所	接骨院等											
	その他											
	計											
合計		568	116	50	19	155	21	160	135	933	291	

診療科目別医療機関搬送状況

(単位:人)

医療機関名		診療科目						計	
		内科	外科	整形	脳外	産婦	小児		その他
管内	町立温泉病院	454		165				619	
	木下医院	17	4	2				23	
	その他								
管外	新宮市立医療センター	89	26	34	38	4	10	55	256
	紀南病院(田辺市)	1	1			1		1	4
	南和歌山医療センター		3		1			2	6
	和歌山県立医大附属病院	1	4	3	1			4	13
	紀南病院組合(三重)	1	1						2
	その他	3	1	2			1	3	10
合計		566	40	206	40	5	11	65	933

搬送医療機関別搬送割合



医療機関名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
町立温泉病院	53.6%	59.0%	61.8%	61.9%	66.4%
木下医院	3.2%	1.7%	3.0%	3.9%	2.5%
管内その他	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%	0.0%
新宮市立医療センター	39.2%	34.8%	31.5%	29.6%	27.4%
和歌山県立医大附属病院	0.7%	1.4%	0.8%	0.9%	1.4%
南和歌山医療センター	0.4%	0.2%	0.4%	0.3%	0.6%
管外その他	2.6%	2.7%	2.2%	3.2%	1.7%

現場到着所要時間別出場状況(覚知～現場到着)

(単位:件)

事故種別	現場到着					計	最短 現場到着 所要時間 (分)	最長 現場到着 所要時間 (分)	平均 現場到着 所要時間 (分)
	3分 未満	3分 以上 5分 未満	5分 以上 10分 未満	10分 以上 20分 未満	20分 以上				
急病	12	149	221	199	28	609	1	50	8.8
交通	2	10	11	20	5	48	2	59	11.4
一般負傷	3	37	54	66	6	166	1	35	9.3
その他	15	82	43	26	2	168	1	49	5.7
合計	32	278	329	311	41	991			8.5

収容所要時間別搬送状況(覚知～病院収容)

(単位:人)

事故種別	収容所要時間												計	最短 収容所要 時間 (分)	最長 収容所要 時間 (分)	平均 収容所要 時間 (分)	
	10分 未満		10分 以上 20分 未満		20分 以上 30分 未満		30分 以上 60分 未満		60分 以上 120分 未満		120分 以上						
	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	(分)	(分)	(分)
急病			21		165	12	336	88	42	12	4	4	568	116	14	210	38.5
交通			1		10		30	12	8	6	1	1	50	19	19	125	45.1
一般負傷			7		38		99	17	9	3	2	1	155	21	13	147	38.9
その他			4	2	94	85	48	34	8	8	6	6	160	135	17	213	37.9
合計			33	2	307	97	513	151	67	29	13	12	933	291			38.8

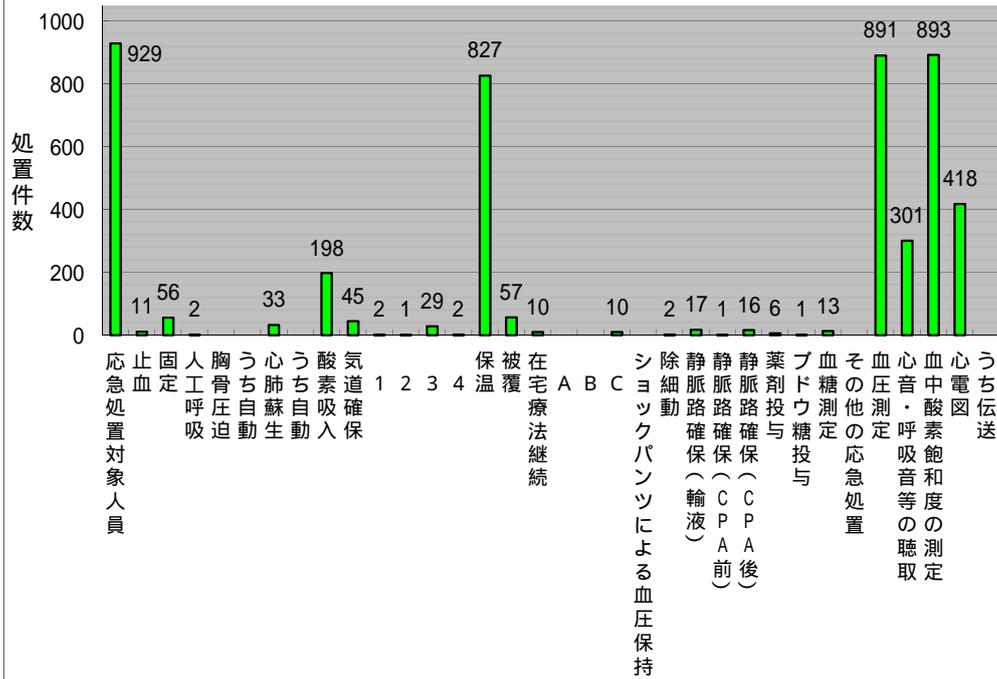
救急隊の行った応急処置件数

疾病程度 項目	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
応急処置対象人員	32	126	368	403		929
止血			3	8		11
固定	2	8	14	32		56
人工呼吸		2				2
胸骨圧迫						
うち自動						
心肺蘇生	32	1				33
うち自動						
酸素吸入	32	56	86	24		198
気道確保	32	6	6	1		45
1	1		1			2
2	1					1
3	28	1				29
4	2					2
保温	28	121	340	338		827
被覆		1	11	45		57
在宅療法継続		5	1	4		10
A						
B						
C		5	1	4		10
ショックパンツによる 血圧保持						
除細動	2					2
静脈路確保（輸液）	15	1		1		17
静脈路確保（CPA前）				1		1
静脈路確保（CPA後）	15	1				16
薬剤投与	5	1				6
ブドウ糖投与				1		1
血糖測定		1	9	3		13
その他の応急処置						
血圧測定		125	368	398		891
聴診器による心音・呼 吸音等の聴取	30	48	106	117		301
血中酸素飽和度の測定		126	367	400		893
心電図	32	64	162	160		418
うち伝送						
合計	210	566	1,473	1,532		3,781

- 1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保
- 2 喉頭鏡・鉗子等による異物除去
- 3 ラリングマスク等を使用しての気道確保
- 4 気管チューブによる気道確保
- A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
- B 気管切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの
- C A、B以外の処置が施されているもの

救急救命士が行う特定行為

救急隊の行った応急処置件数



特定行為実施状況

項目	平成27年度	平成28年度	比較	
C P A (現場又は車内)	35人	33人	2人減	
特定行為実施対象者	28人	32人	5人増	
特定行為	気道確保	26例	29例	3例増
	気管挿管	1例	2例	1例増
	除細動	3例	2例	1例減
	輸液(CPA後)	8例	16例	8例増
	輸液(CPA前)	1例	1例	増減なし
	薬剤投与	8例	6例	2例減
	ブドウ糖投与	0例	1例	1例増

転送にかかる収容所要時間別搬送状況

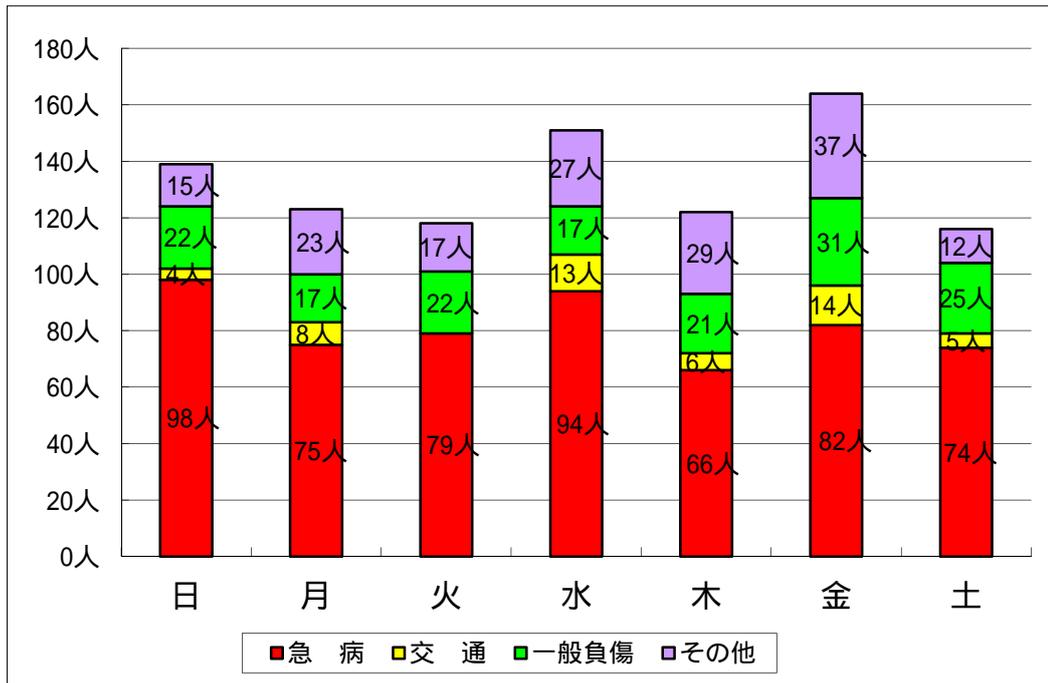
(単位:人)

事故種別	収容所要時間		10分未満		10分以上 20分未満		20分以上 30分未満		30分以上 60分未満		60分以上 120分未満		120分以上		計	
	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外
急病									1	1	5	5	3	3	9	9
交通									1						1	
一般負傷											1	1			1	1
その他									1		1	1			2	1
合計									3	1	7	7	3	3	13	11

医療情報提供件数調

情報種別	件数
医療機関等の案内	57
応急処置の方法・知識等の指導	61
救急自動車の利用方法の指導	835
計	953

曜日別搬送状況



(単位:人)

事故種別 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	計
急病	98	75	79	94	66	82	74	568
交通	4	8		13	6	14	5	50
一般負傷	22	17	22	17	21	31	25	155
その他	15	23	17	27	29	37	12	160
合計	139	123	118	151	122	164	116	933

宿泊施設からの要請による搬送状況

事故種別	出場状況	搬送人員		不搬送件数	
		全体	全体	全体	全体
急病		47 / 609	39 / 568	8 / 41	
交通		0 / 48	0 / 50	0 / 5	
一般負傷		20 / 166	18 / 155	2 / 12	
その他		0 / 168	0 / 160	0 / 9	
計		67 / 991	57 / 933	10 / 67	

事故種別転送回数別搬送人員調

事故種別 転送回数	急病		交通		一般負傷		その他		計	
		応急処置		応急処置		応急処置		応急処置		応急処置
0回	559	/	49	/	154	/	158	/	920	/
1回	9	9	1	1	1	1	2	2	13	13
2回										
3回										
4回										
5回										
5回以上										
合計	568	9	50	1	155	1	160	2	933	13

傷病程度別転送回数別搬送人員調

傷病程度 転送回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
	死亡	32					
重症	124	3					127
中等症	358	10					368
軽症	406						406
その他							
合計	920	13					933

診療科目別医療機関案内状況

診療科目	内科	小児科	外科	脳神経外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	循環器科	消化器科	呼吸器科	心血管外科	神経内科	歯科	精神科	その他	合計
案件内数	23	5	10		9		2	1	2	4							1		57

ヘリコプターによる搬送状況

年月日	事故種別	性別	年齢	搬送先	備考
平成28年5月6日	交通	男	18	南和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
平成28年6月3日	交通	女	57	南和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
平成28年6月30日	転院搬送	男	73	和歌山県立医科大学附属病院	ドクターヘリコプター
平成28年7月1日	交通	女	26	南和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
平成28年7月11日	転院搬送	女	92	日赤和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
平成28年8月10日	交通	男	6	和歌山県立医科大学附属病院	ドクターヘリコプター
平成28年8月15日	転院搬送	女	59	和歌山県立医科大学附属病院	ドクターヘリコプター
平成28年11月11日	転院搬送	女	45	和歌山県立医科大学附属病院	ドクターヘリコプター
平成28年11月30日	労働災害	男	65	和歌山県立医科大学附属病院	ドクターヘリコプター
平成28年12月29日	交通	男	32	南和歌山医療センター	ドクターヘリコプター
平成29年2月23日	転院搬送	男	42	和歌山県立医科大学附属病院	ドクターヘリコプター
平成29年3月11日	交通	女	70	新宮市立医療センター	ドクターヘリコプター
平成29年3月14日	急病	男	48	新宮市立医療センター	ドクターヘリコプター



階級別救急資格取得状況調

平成29年4月1日

階級 資格	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消防士長	消 防 副士長	消防士	計
救急救命士		3名	7名	4名		1名	15名
標準課程修了			5名	1名	3名	7名	16名
課程修了	1名	4名	1名				6名
課程修了							0名
資格無し						3名	3名
合 計	1名	7名	13名	5名	3名	11名	40名

年齢別救急資格取得状況調

平成29年4月1日

年齢 資格	50歳以上	40歳以上 50歳未満	30歳以上 40歳未満	30歳未満	計
救急救命士	3名	4名	7名	1名	15名
標準課程修了		4名	3名	9名	16名
課程修了	2名	4名			6名
課程修了					0名
資格無し				3名	3名
合 計	5名	12名	10名	13名	40名

救 急 救 命 士 救急救命士法により、救急救命士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けた者

標準課程修了者 消防学校の教育訓練の基準別表第二に定める課程（250時間以上）を修了した者

救急 課程修了者 消防法施行規則第50条に定める講習の課程を修了した者及び同令51条の規定により救急業務に関する講習の課程を修了した者と同等以上の学識経験を有すると認定された者に対して、消防学校の教育訓練の基準別表第二に定める課程（115時間以上）を修了した者

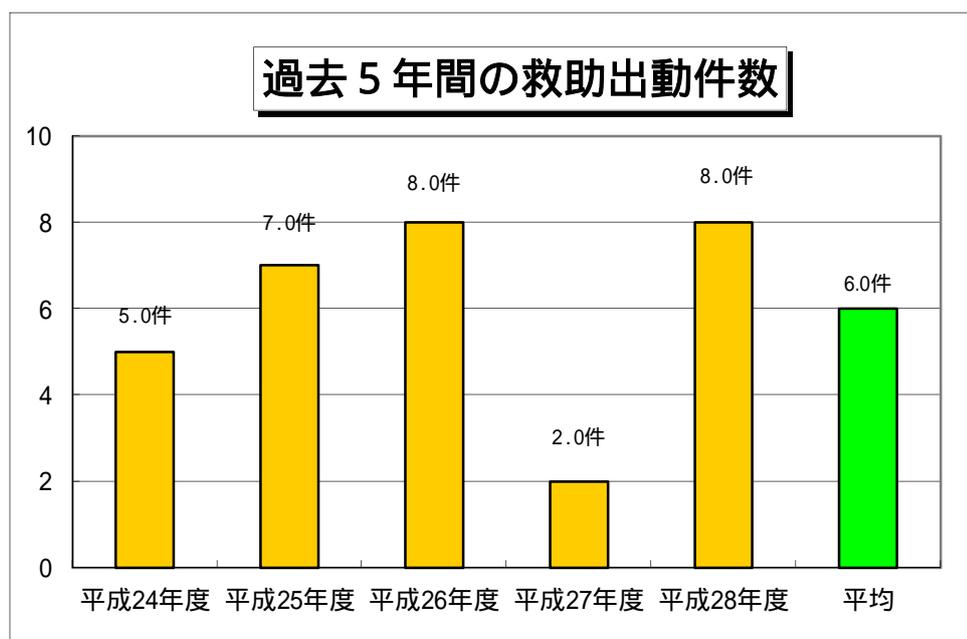
救急 課程修了者 消防法施行規則第50条に定める講習の課程（135時間以上）を修了した者及び同令51条の規定により救急業務に関する講習の課程を修了した者と同等以上の学識経験を有すると認定された者

救助統計

平成28年度の事故種別・地区別救助出動状況（下段：前年度）

事故種別	地区別出動件数								出動車両台数	出動人員	救助人員
	勝浦	那智	宇久井	色川	下里	太田	その他	計			
火災											
交通事故		1	(1)	1	1			3 (1)	8 (2)	30 (7)	2 (1)
水難事故	1				1			2	6	17	1
自然災害											
機械による事故											
建物等による事故											
ガス及び酸欠事故											
破裂事故											
その他		3	(1)					3 (1)	7 (4)	33 (10)	3 (1)
計	1	4	(2)	1	2			8 (2)	21 (6)	80 (17)	6 (2)

- 救助事故とは、火災・災害・事故等により要救護者の生命又は身体に現実の危険が及んでいる事故であり、要救護者の存在が確認されているほか、通報時及び現場到着時、要救護者の存在が予想される状況における事故をいう。
- 救助活動とは、救助事故にあたり消防機関が要救護者の危険を排除するために、人力・機械力・器具等を用いて安全な場所に救出するための活動をいう。



他機関との合同訓練実施状況

平成28年度

年 月 日	訓 練 名 称	実 施 場 所	参 加 機 関
平成28年7月3日	平成28年度津波災害 対応実践訓練	新宮市佐野 新宮港緑地	田辺市消防本部 新宮市消防本部 白浜町消防本部 串本町消防本部 和歌山県防災航空隊 陸上自衛隊 和歌山県警察本部 和歌山災害救助犬協会 県内DMAT
平成28年10月12日	防災航空隊合同訓練	旧グリーンピア南紀	和歌山県防災航空隊

救助活動の範囲

調査に当たって対象とした救助活動は、次のいずれにも該当するものである。

- 1 火災・災害又は事故により発生したものであること。
- 2 要救護者の存在が予想され、しかも、その生命又は身体に現実の危険が及んでいるものであること。
- 3 緊急に被害者を人力・機械力、器具等を用いて安全な場所に救出する必要があるものであること。
- 4 消防機関が行ったものであること（救助隊未設置の消防機関が行ったものも含む）。また、この調査では次のような取扱をしている。
 - (1) 直接人命救助を伴わない警戒活動・危険物排除活動等及び死体搜索は、調査対象から除外している。
 - (2) 「火災」の場合における「救助出動件数」は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を実施した場合のみ救助出動件数として計上している。すなわち、救助出動件数と救助活動件数は同数となっている。また、火災時に救助隊員の誘導については「救助出動件数」及び「救助活動件数」に含めている。

事故種別の区分

- 1 「火災」 火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。
- 2 「交通事故」 すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
- 3 「水難事故」 水泳中の溺者又は水中転落による事故をいう。
- 4 「自然災害」 暴風・豪雨・豪雪・洪水・高潮・津波・噴火・雪崩・地滑りその他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。
- 5 「機械による事故」 エレベーター・プレス機械・ベルトコンベアーその他の建設機械・工作機械等による事故をいう。
- 6 「建物等による事故」 建物・門・柵・塀等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故・建物等内に閉じこめられる事故・建物等に挟まれる事故等をいう。
- 7 「ガス及び酸欠事故」 一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故及び酸素欠乏による事故等をいう。
- 8 「破裂事故」 火災以外のボイラー・ボンベ等の物理的破裂による事故等をいう。
- 9 「その他」 1 から 8 に掲げる事故以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故をいう。

消防團編

消防団の概要

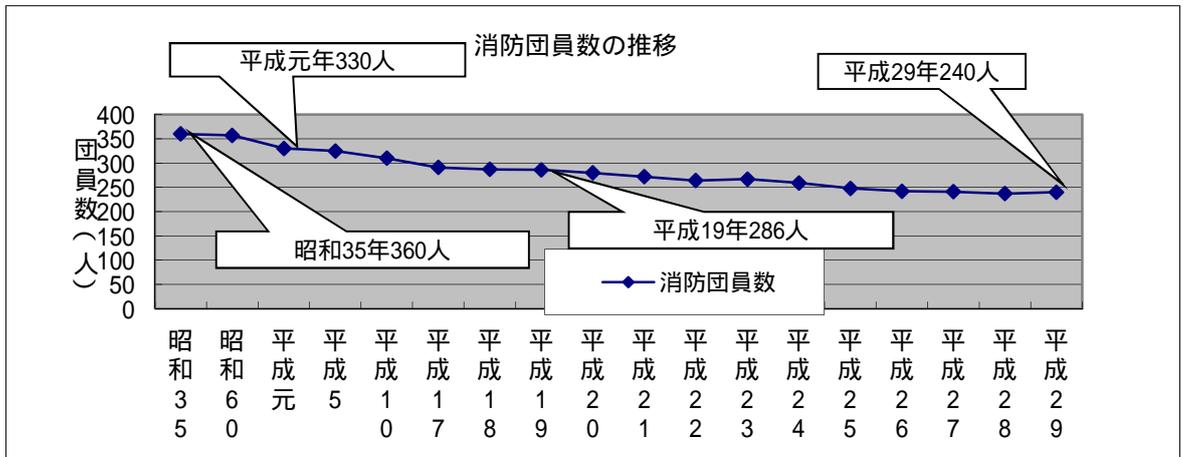
1 消防団員数

消防白書によれば平成28年4月1日現在、全国の消防団員数は856,278人で、団員数は減少傾向にある。

同様に、平成29年4月1日現在の本町消防団員数は240人で、10年前の平成19年4月1日現在に比べ、46人（16.1%）減少している。第二次町村合併により那智勝浦町消防団として発足した昭和35年4月1日現在の団員数360人と比較すると、120人（33.3%）の減少となる。

一方、平成29年4月1日現在の我が国の人口（概算値）は約12,679万人で、消防団はすべての市町村に設置されており、国民に対する消防団員の構成比（消防団員率）は、約0.68%となる。

これに対し、平成29年4月1日現在の本町人口は15,859人（外国人登録含む）で、住民に対する消防団員の構成比（消防団員率）は、約1.5%となっている。

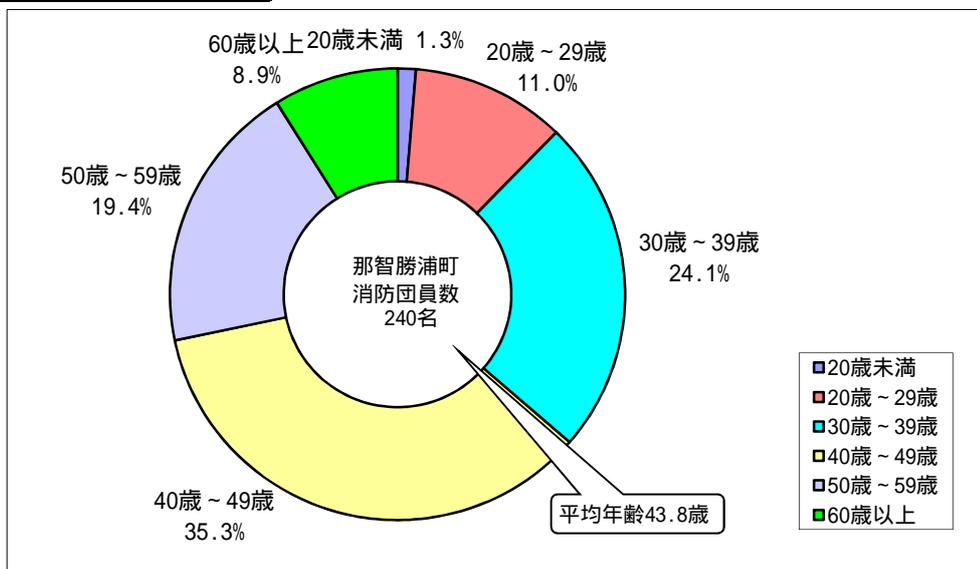


2 消防団員の年齢構成

消防白書によれば平成28年4月1日現在、全国の消防団員数の年齢構成は40歳以上の団員が49.6%を占め、また、平均年齢は40.5歳となっている。

これに対し、平成29年4月1日現在の本町消防団員の年齢構成は、40歳以上の団員が65.4%を占め、平均年齢は43.8歳となっており、全国と比して高齢化を示している。

消防団員の年齢構成



歴代消防団長

歴代	氏名	在職期間
初代	村田 定平	S30. 4. 1 ~ S32. 2. 8
2代	根山 英治	S32. 2.25 ~ S49. 6.30
3代	久司 正男	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1
4代	田中 熊市	S57. 4. 2 ~ H 7.10.31
5代	清水 美幸	H 7.11. 1 ~ H 9.10.31
6代	永田 宏	H 9.11. 1 ~ H21. 3.31
7代	前地 俊秀	H21. 4. 1 ~ H27. 3.31
8代	貝岐 昌志	H27. 4. 1 ~ 現在

歴代消防副団長

歴代	氏名	在職期間
初代	塩崎 正夫	S30. 4. 1 ~ S34. 7.20
	久司 正男	S30. 4. 1 ~ S32. 2.24
2代	久司 正男	S32. 2.25 ~ S49. 6.30
	鳥羽山 藤夫	S35. 1.11 ~ S46.12.15
3代	田中 熊市	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1
	榎本 哲修	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1
4代	榎本 哲修	S57. 4. 2 ~ H 4. 3.31
	藤本 繁	S57. 4. 3 ~ H 2. 3.31
5代	後呂 信喜	H 2. 4. 1 ~ H 7.10.31
	清水 美幸	H 4. 4. 1 ~ H 7.10.31
6代	後呂 信喜	H 7.11. 1 ~ H 9.10.29
	永田 宏	H 7.11. 7 ~ H 9.10.31
7代	津木 拓	H 9.11. 1 ~ H13. 3.31
	丸山 規賓	H 9.11. 1 ~ H13. 3.31
8代	丸山 規賓	H13. 4. 1 ~ H20. 3.31
	倉本 満夫	H13. 4. 1 ~ H20. 3.31
9代	丸山 規賓	H20. 4. 1 ~ H21. 3.31
	竹原 昌男	H20. 4. 1 ~ H21. 3.31
10代	畑 哲也	H21. 4. 1 ~ H24. 3.31
	村上 幸弘	H21. 4. 1 ~ H24. 3.31
11代	畑 哲也	H24. 4. 1 ~ H26. 3.31
	貝岐 昌志	H24. 4. 1 ~ H26. 3.31
12代	貝岐 昌志	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31
	下地 将仁	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31
13代	下地 将仁	H27. 4. 1 ~ 現在
	丸山 高史	H27. 4. 1 ~ 現在

消防団員数

平成29年4月1日

階級 所属	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
団本部	1	2						3名
第1分団			1	2	4	6 (1)	12 (5)	25名 (6)
第2分団			1	2	7	9 (1)	8	27名 (1)
第3分団			1	2	7	5 (2)	15 (2)	30名 (4)
第4分団			1	2	6	7	22 (3)	38名 (3)
第5分団			1	1	5	6 (2)	8	21名 (2)
第6分団			1	2	5	7 (1)	14 (2)	29名 (3)
第7分団			1	2	7	9	12 (1)	31名 (1)
第8分団			1	2	7	10	16 (2)	36名 (2)
合 計	1名	2名	8名	15名	48名	59名 (7)	107名 (15)	240名 (22)

()内 女性消防団員

消防団員階級別年齢表

平成29年4月1日

階級 所属	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計	全体に占める割合
70歳代									
60歳代	1	1	3	2	6	4 (1)	1	18名 (1)	7.5%
50歳代		1	4	10	24	11 (3)	3 (1)	53名 (3)	22.1%
40歳代			1	3	12	30 (4)	40 (5)	86名 (9)	35.8%
30歳代					5	14	41 (4)	60名 (4)	25.0%
20歳代					1		21 (4)	22名 (4)	9.2%
10歳代							1 (1)	1名 (1)	0.4%
合 計	1名	2名	8名	15名	48名	59名 (7)	107名 (15)	240名 (22)	100.0%

消防団員平均年齢

43.8歳

うち男性団員平均年齢

44.0歳

うち女性団員平均年齢

41.6歳

()内 女性消防団員

消防団員階級別在職年数表

平成29年4月1日

階級 所属	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計	全体に占 める割合
45年以上									
40～ 44年	1		1					2名	0.8%
35～ 39年		1	1	1	1			4名	1.7%
30～ 34年		1	2	2	2		1	8名	3.3%
25～ 29年				6	9	4 (1)	1	20名 (1)	8.3%
20～ 24年			2	3	12	3		20名	8.3%
15～ 19年			1	1	14	10 (4)	3 (1)	29名 (5)	12.1%
10～ 14年			1	1	7	21	9 (2)	39名 (2)	16.3%
5～ 9年					3	19 (1)	30 (5)	52名 (6)	21.7%
5年未満				1		2 (1)	63 (7)	66名 (8)	27.5%
合 計	1名	2名	8名	15名	48名	59名 (7)	107名 (15)	240名 (22)	100.0%

消防団員在職平均年数

12.1年

うち男性団員平均
うち女性団員平均

12.4年

8.8年

()内 女性消防団員

消防団員報酬

年報酬		機械整備手当	
団 長	年額 167,000円	1台	年額 40,000円
副団長	年額 90,000円	消防艇	年額 63,000円
分団長	年額 53,000円	出動手当	
副分団長	年額 48,000円	水・火災	1回 4,000円
部 長	年額 34,000円	警戒・訓練	1回 4,000円
班 長	年額 30,000円		
団 員	年額 27,000円		

消防団員の職業構成

平成29年4月1日

合計 構成比	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業
240名	17	9	7	0	39	7
100%	7.1%	3.8%	2.9%	0.0%	16.3%	2.9%

電気、ガス、熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業
12	8	23	1	0	88
5.0%	3.3%	9.6%	0.4%	0.0%	36.6%

公務員(他に分類されないもの)			分類不能の産業	その他
国家公務員	地方公務員	特殊法人等公務員に準じる職員		
0	0	19	5	5
0.0%	0.0%	7.9%	2.1%	2.1%
				その他の産業の内 主婦
				1
				無職
				4

消防団員の就業形態

平成29年4月1日

合計 構成比	被用者	自営業者			家族従業者
		被用者のある業主	被用者のない業主	計	
240名	157	16	50	66	8
100%	65.4%	6.7%	20.8%	27.5%	3.3%

その他			
役員	家庭内職者	その他	計
4	0	5	9
1.7%	0.0%	2.1%	3.8%
		その他の主な内 主婦	
		1	
		無職	
		4	

消防団員の退職・新任状況

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

退職団員数 (構成比)	在職年数					
	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満
14名	4	3	0	2	1	0
100%	28.6%	21.4%	0.0%	14.3%	7.1%	0.0%

30年以上
4
28.6%

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

新任団員数 (構成比)	新任団員数のうち					
	21歳未満	21歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳
13名	4	1	1	1	1	5
100%	30.8%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	38.4%

新任団員数のうち		再入団員数
46歳～50歳	51歳以上	
0	0	0
0.0%	0.0%	0.0%

消防団員教養実施状況

	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
団幹部教育	2	2	2	2	2	2	2	2		2	2
団幹部候補中央特別研修					2				1		
団幹部特別研修								1	1		
団専科教育機関科							2	1	2	2	1

消防団員数の推移

平成29年4月1日

年 度	消防団員数		備 考
	定 数	実 員	
明治39年4月		75名	私設天満消防組創設
明治40年4月			那智消防組創設
明治41年4月		65名	勝浦消防組創設
明治42年4月		50名	私設井関消防組創設
昭和30年4月		256名	那智勝浦町消防団発足4個分団
昭和35年4月	380名	360名	那智勝浦町消防団発足6個分団
昭和40年4月		370名	
昭和45年4月		376名	
昭和50年4月		366名	
昭和55年4月		361名	
昭和58年4月		347名	那智勝浦町消防団発足8個分団
平成元年4月		330名	
平成2年4月		320名	10月女性消防団員採用22名
平成3年4月		341名	女性消防団員23名
平成4年4月		331名	女性消防団員23名
平成5年4月		325名	女性消防団員24名
平成6年4月		327名	女性消防団員24名
平成7年4月		322名	女性消防団員24名
平成8年4月		325名	女性消防団員24名
平成9年4月		317名	女性消防団員25名
平成10年4月		310名	女性消防団員26名
平成11年4月		318名	女性消防団員29名
平成12年4月		314名	女性消防団員31名
平成13年4月		313名	女性消防団員32名
平成14年4月		297名	女性消防団員32名
平成15年4月		295名	女性消防団員32名
平成16年4月		286名	女性消防団員30名
平成17年4月		291名	女性消防団員29名
平成18年4月		287名	女性消防団員30名
平成19年4月		286名	女性消防団員31名
平成20年4月		280名	女性消防団員29名
平成21年4月		272名	女性消防団員29名
平成22年4月	323名	264名	女性消防団員28名
平成23年4月		267名	女性消防団員30名
平成24年4月		259名	女性消防団員32名
平成25年4月		248名	女性消防団員27名
平成26年4月		242名	女性消防団員24名
平成27年4月		241名	女性消防団員23名
平成28年4月		237名	女性消防団員22名
平成29年4月		240名	女性消防団員22名

119番通報から
救急車が到着するまでの時間

通報場所	距離	到着時間
勝 浦 駅	0.6km	2分
大 勝 浦	1.5km	4分
町立温泉病院	1.2km	2分
那 智 山	10km	14分
役場宇久井出張所	8km	10分
高 津 気	8km	14分
役場下里出張所	9km	12分
浦 神	14km	15分
役場太田出張所	10km	15分
小 匠	18km	24分
役場色川出張所	22km	35分
町 内 平 均		8.8分

救急車の正しい利用をお願いします。

平成29年版 消防年報

編集発行 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字朝日1丁目69番地

那 智 勝 浦 町 消 防 本 部

〒649-5332

TEL 0735 (52) 4900

FAX 0735 (52) 4953



南紀勝浦「マグロの町」は、毎日が防火デー！